

平成26年度
「市民生活実感調査」に
係る分析結果

平成27年3月

「未来の京都創造研究事業」

公益財団法人大学コンソーシアム京都・京都市

目 次

はじめに	P 1
I 平成26年度市民生活実感調査の概要について ＜資料1＞	P 3
II 生活実感、政策重要度、市政関心度、幸福実感の回答結果について ＜資料2～6＞	P 9
III 統計的分析手法を用いた分析について	P 25
1 生活実感における過去3年平均との比較について ＜資料7＞	P 27
2 政策重要度と生活実感における相関について ＜資料8＞	P 42
3 生活実感と幸福実感における相関について ＜資料9＞	P 51
4 自由記述の分析について	P 55
＜参考＞生活実感調査 設問一覧（27政策分野130問）	P 59
むすびに	P 61

「市民生活実感調査」とは…

京都市の政策評価制度の一環として、市基本計画に掲げる政策・施策がどの程度達成されているかについて市民の方々の実感を把握するため、生活実感（27政策分野130問）、政策重要度（27政策分野）、市政関心度、幸福実感及び自由記述の5項目の調査を、平成16年度から毎年、市が行っている。

はじめに

「未来の京都創造研究事業」は、「大学のまち・京都」が有する知の集積を活用し、未来の京都づくりに向けた政策を創造するための調査・研究を行うとともに、最先端の研究に取り組む意欲ある若手研究者等の発掘・育成とネットワーク形成を目指して公益財団法人大学コンソーシアム京都と京都市が平成23年度から始めた共同事業である。

本事業の一環として、未来の京都づくりに向けた政策を創造するための調査・研究を行うための貴重な情報を得ることを目的に、市が実施している「市民生活実感調査」のデータ分析も行っている。

最初に分析を行った23年度は「生活実感」「政策の重要度」「市政への関心度」の3種類の調査項目における属性（「世代別・性別」と「居住区別」）ごとの分析を行った。

翌24年度は「生活実感」「政策の重要度」「市政への関心度」の2年度分の回答の変化、「自由記述」の単年度の分析、24年度から新しく設定された「幸福実感」を分析し、さらには調査項目間のクロス分析も実施した。

25年度は回答者の属性として「世代別・性別」にもとづき、「生活実感」と「市政への関心度」の3年度分の回答の変化、「幸福実感」の2年度分の回答の変化、「自由記述」の単年度の分析、また「政策の重要度」は25年度に様式が一新されたため単年度の分析をそれぞれ行った。さらに24年度に引き続き調査項目間のクロス分析を実施するとともに、新たに政策分野ごとの分析を加えた。

26年度は質問項目が前年度とまったく同じであったため、分析方法も前年度の方法を踏襲した。すなわち、データが1年度分増えたことによる「生活実感」と「市政への関心度」は4年度分の回答の変化、「幸福実感」は3年度分の回答の変化、「政策重要度」は2年度分の変化、「自由記述」の単年度の分析をそれぞれ行った。加えて、新たに、生活実感と政策重要度は2年度分の変化、生活実感と幸福実感の詳細な分析を行った。

ただし、属性ごとの分析には一定のサンプル数が必要であるため、本分析では市全体と世代別・性別のみを分析対象とした。居住区別の集計結果等は当財団のホームページに掲載しているので、そちらをご覧ください。

今年度の分析には4年度分のデータを用いており、さらに信頼性のある分析ができたと思う。市のそれぞれの担当部署においては、分析結果についてその要因を検討し、今後の事業等に生かしていただくことを期待する。

また、京都市民のみなさんには、これらの分析結果をまちづくり活動等に生かしていただければ幸いである。特に京都に数多くいる学生・研究者には、本分析結果を材料としてゼミ活動や研究等に生かしていただくことを強く期待する。

I 平成26年度市民生活実感調査の概要について

I 平成26年度市民生活実感調査の概要について

平成26年度市民生活実感調査の概要は、以下のとおりである。

1 調査対象

20歳以上の京都市民3,000人（住民基本台帳と外国人登録データから無作為抽出）を対象に郵便で調査票を送付し回収したものである。

2 調査期間

平成26年5月13日～6月13日

3 回収状況＜資料1＞

有効回答数1,105（回収率36.8%）

4 調査項目

- (1) 生活実感
- (2) 政策重要度
- (3) 市政関心度
- (4) 幸福実感
- (5) 自由記述

5 回答者の属性

本分析で用いた属性は、回答者の年代と性別を一つにまとめた「世代別・性別」である。

- ・若年層男性...20歳代・30歳代の男性
- ・若年層女性...20歳代・30歳代の女性
- ・中年層男性...40歳代・50歳代の男性
- ・中年層女性...40歳代・50歳代の女性
- ・高年層男性...60歳代・70歳代・80歳以上の男性
- ・高年層女性...60歳代・70歳代・80歳以上の女性

なお、市民生活実感調査では、年代や性別の属性以外にもお住まいの行政区を回答していただいている。しかし、母数が少ない区もあり、適切な分析ができないため、「居住区別」の集計結果等を当財団のホームページに掲載するにとどめている。

平成26年度市民生活実感調査の属性別の回答状況

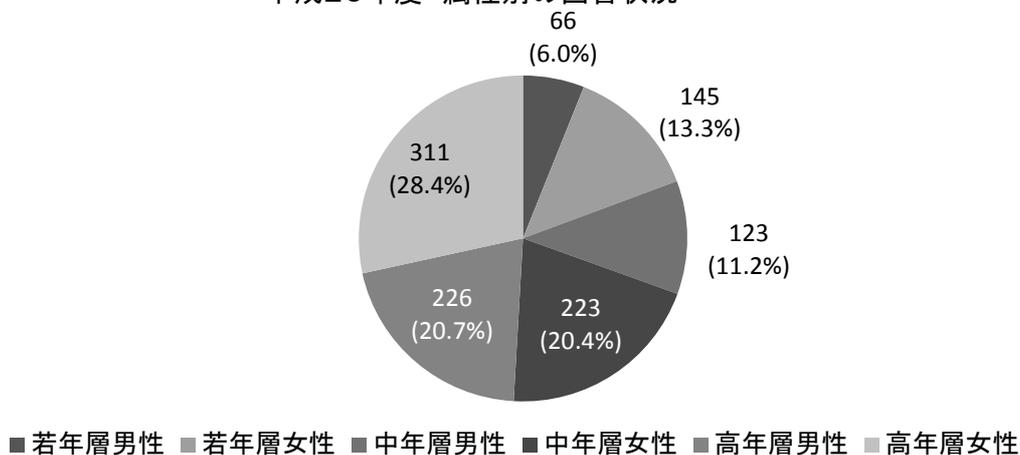
【世代別・性別】

世代別・性別	平成26年度	
	有効回答数	構成比
市全体	1,105	-
若年層男性	66	6.0%
若年層女性	145	13.3%
中年層男性	123	11.2%
中年層女性	223	20.4%
高年層男性	226	20.7%
高年層女性	311	28.4%
無回答	11	1.0%

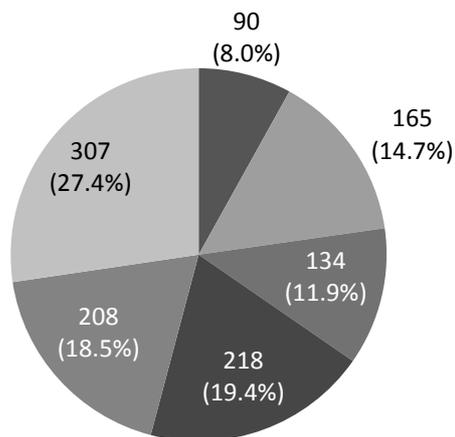
(過年度)

世代別・性別	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
市全体	1,157	-	1,186	-	1,137	-
若年層男性	90	8.0%	90	7.8%	84	7.6%
若年層女性	165	14.7%	182	15.7%	165	14.9%
中年層男性	134	11.9%	159	13.8%	115	10.4%
中年層女性	218	19.4%	218	18.9%	209	18.9%
高年層男性	208	18.5%	232	20.1%	231	20.8%
高年層女性	307	27.4%	275	23.8%	304	27.4%
無回答	35	3.1%	30	2.6%	29	2.6%

平成26年度 属性別の回答状況

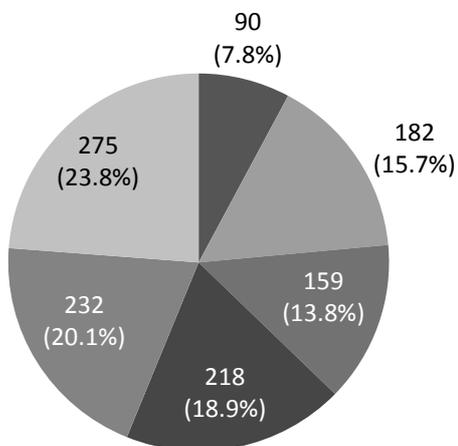


平成23年度

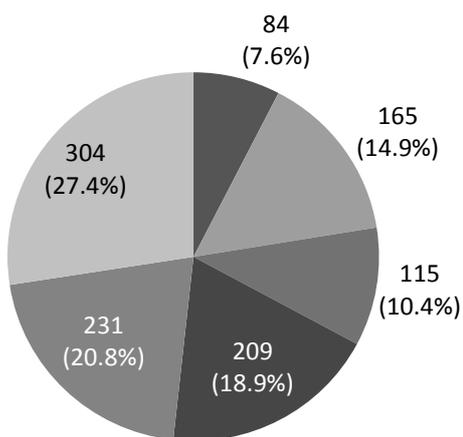


■ 若年層男性 ■ 若年層女性 ■ 中年層男性 ■ 中年層女性 ■ 高年層男性 ■ 高年層女性

平成24年度



平成25年度



Ⅱ 生活実感、政策重要度、市政関心度、幸福実感の 回答結果について

Ⅱ 生活実感、政策重要度、市政関心度、幸福実感の回答結果について

平成26年度市民生活実感調査における四つの調査項目の結果概要は、以下のとおりである。

以下にいう「肯定的割合」とは、「そう思う」と「どちらかというと思う」など回答者が肯定的に捉えているものを足し合わせた値である。

1 生活実感＜資料2：P13＞

この調査は、現在の生活についての市民の実感を把握するため、京都市政に係る27の政策分野において設定した、「利用しやすく頼れる医療や検診の機関がある。」など合計130の設問について、「そう思う」「どちらかというと思う」「どちらとも言えない」「どちらかというと思う」「そう思わない」「そう思わない」の5段階で回答したものである（どれにもあてはまらない場合は無回答）。

生活実感の高さは、政策の効果が高いと市民が認識しているか、政策の効果にかかわらず、市民の生活場面（その時期に社会で起こった出来事など）における実感が高いことなどが原因と考えられる。一方、生活実感の低さは、政策の効果が低いと市民が認識しているか、政策の効果にかかわらず、生活場面における実感が低いことなどが原因と考えられる。

資料2に130の設問における回答の平均値を記載した。この数値を基準とすることにより、それぞれの設問における世代別・性別、居住区ごとの生活実感が市全体の平均値と比べるとどのような状況であるかを把握することが容易になると考えられる。

回答結果を肯定的割合で見ると、中年層男性の低さは4年間を通じて一貫している。過去3年（平成23～25年度）の平均と比べると、若年層は男女とも大きく増加した。市全体ではわずかに増加した。

2 政策重要度＜資料3：P16＞

この調査は、27の政策分野の重要度を把握するため、それぞれについて「重要である」「どちらかという重要である」「どちらとも言えない」「どちらかという重要ではない」「重要ではない」の5段階で回答したものである（どれにもあてはまらない場合は無回答）。

政策重要度の高さは、当該分野における政策を市民が重要と認識していることが原因と考えられる。一方、政策重要度の低さは、政策の効果が市民生活に浸透していることにより当該分野における政策の重要性を市民がことさらに認識する必要がないこと、現在実行されている政策のPR不足等の理由により市民に知られていないこと、市民が当該分野の政策の優先順位が低いものと受け止めていることなどの理由により、市民が重要であると認識していないことが原因と考えられる。

回答結果を肯定的割合で見ると、すべての区分の中でも上位の「消防・防災」、「くらしの水」、「環境」と、下位の「土地利用と都市機能配置」、「スポーツ」は概ね昨年度と変わらなかったものの、「産業・商業」の肯定的回答が減少したことが大きな変化であった。ただし「産業・商業」

においては中年層男性の肯定的回答が引き続き高い水準にあることから、勤労者が多い層とそうでない層では意識の差があることがうかがえる。

※平成25年度から新しい回答方式をとっており、昨年度との比較のみできる。

3 生活実感と政策重要度における肯定的割合の順位<資料4：P17>

生活実感と政策重要度について、27の政策分野それぞれの肯定的割合が高いものから順に示した。これにより、各政策分野における生活実感と政策重要度の肯定的割合の順位及びその差を一覧することができる。

生活実感と政策重要度の順位の差が最も大きかった政策分野は四つあり、いずれも17位の開きがあった。そのうち、生活実感的割合が高いが政策重要度の肯定的割合が低いのは「大学」、「土地利用と都市機能配置」であり、逆に政策重要度の肯定的割合が高いが生活実感的割合が低いのは「市民生活の安全」、「障害者福祉」であった。

4 市政関心度<資料5：P18>

この調査は、市政に対する関心度を把握するため、「関心がある」「少しは関心がある」「あまり関心がない」「まったく関心がない」「わからない」の5段階で回答したものである（どれにもあてはまらない場合は無回答）。

回答結果を肯定的割合で見ると、平成26年度ほどの世代・性別においても7割を超えているが、世代が上がるにつれて肯定的回答の割合も高いということはこれまでと変わらない。過去3年（平成23～25年度）の平均と比べると、市全体においてはわずかに減少した。前年度比では、若年層男性と中年層女性の減少幅が大きいことが特徴的である。

5 幸福実感<資料6：P21>

この調査は、市民の幸福実感を把握するため、「とても幸せだと思う」「どちらかという幸せだと思う」「どちらとも言えない」「どちらかという幸せではないと思う」「不幸せだと思う」の5段階で回答した結果である（どれにもあてはまらない場合は無回答）。

回答結果を肯定的割合で見ると、今年度も前年度と同じく若年層女性と中年層女性が高い一方、中年層男性、高年層男性、高年層女性が低かった。また過去2年（24年度・25年度）と比べると、市全体、若年層男女、中年層男女で上昇したものの、高年層男性、高年層女性が減少した。しかし上昇したグループにおいても「とても幸せだと思う」とした回答の割合が前年度より上昇したのは中年層男性のみであり、他のグループにおける幸福実感が弱まったことが読み取れる。
※平成24年度から実施しており、過去2年間の平均との比較のみできる。

1 生活実感

(1)4年間の集計

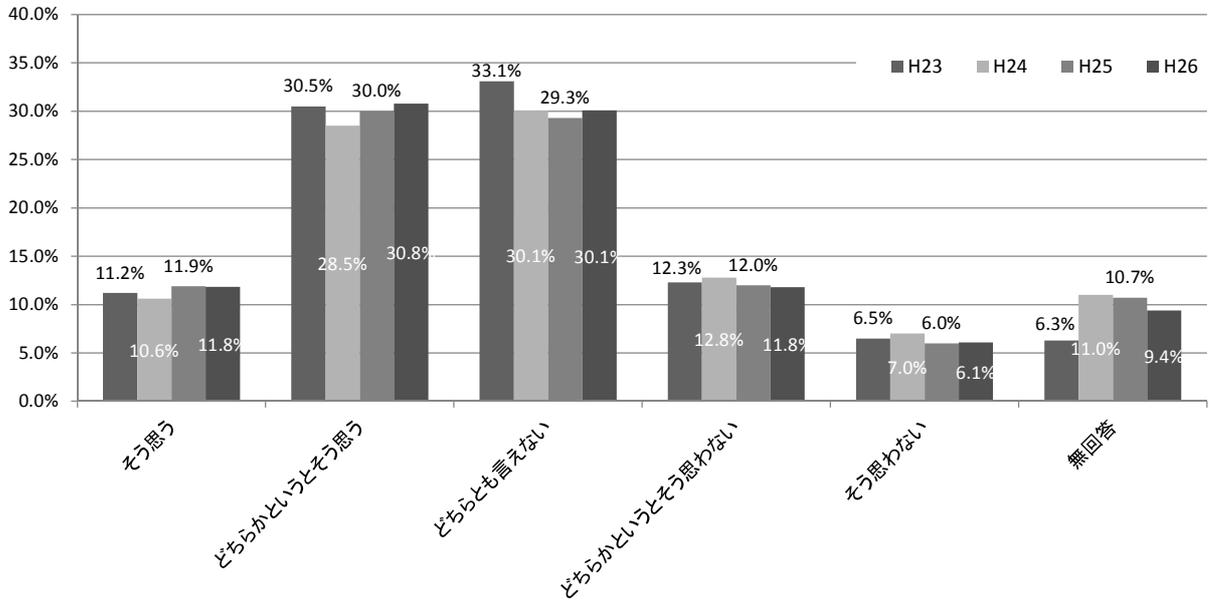
130の設問における市全体の回答のうち、肯定的回答の割合=42.6%

	そう思う				どちらかというと思う				どちらとも言えない			
	H23	H24	H25	H26	H23	H24	H25	H26	H23	H24	H25	H26
市全体	11.2%	10.6%	11.9%	11.8%	30.5%	28.5%	30.0%	30.8%	33.1%	30.1%	29.3%	30.1%
若年層男性	11.7%	10.6%	13.8%	14.4%	28.7%	25.7%	29.7%	30.2%	30.6%	29.7%	30.7%	27.8%
若年層女性	10.4%	12.7%	12.8%	14.4%	29.5%	30.3%	29.1%	30.9%	34.6%	28.6%	27.2%	32.4%
中年層男性	9.1%	9.1%	8.8%	8.4%	29.3%	28.0%	28.0%	28.8%	37.2%	34.8%	34.4%	31.6%
中年層女性	8.0%	9.2%	9.9%	9.6%	31.3%	29.8%	32.7%	33.9%	35.6%	32.0%	32.5%	31.6%
高年層男性	10.7%	10.6%	12.8%	12.4%	32.9%	28.1%	31.0%	31.1%	34.4%	31.7%	30.1%	29.4%
高年層女性	13.6%	10.5%	12.9%	12.7%	31.0%	29.0%	29.2%	29.2%	31.1%	25.7%	26.0%	28.4%

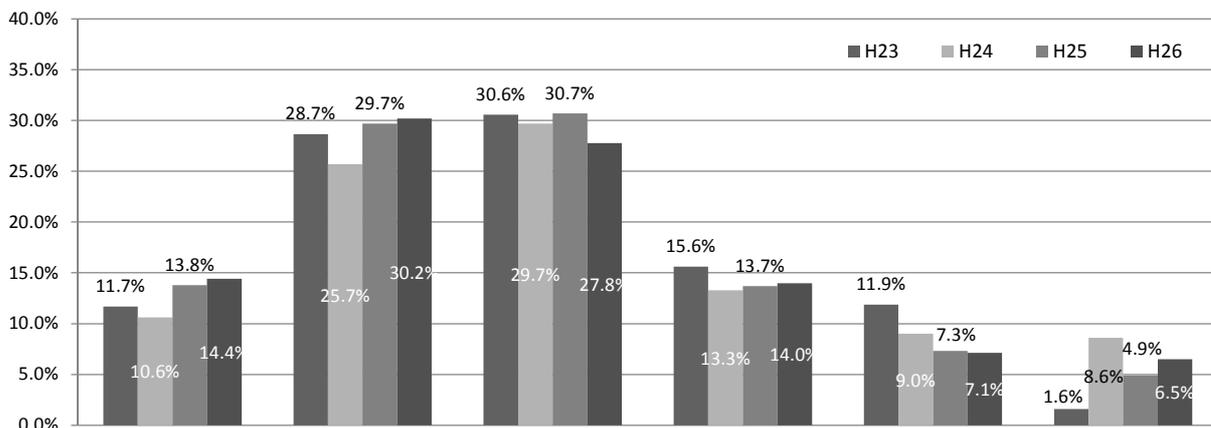
	どちらかというと思わない				そう思わない				無回答			
	H23	H24	H25	H26	H23	H24	H25	H26	H23	H24	H25	H26
市全体	12.3%	12.8%	12.0%	11.8%	6.5%	7.0%	6.0%	6.1%	6.3%	11.0%	10.7%	9.4%
若年層男性	15.6%	13.3%	13.7%	14.0%	11.9%	9.0%	7.3%	7.1%	1.6%	8.6%	4.9%	6.5%
若年層女性	13.9%	12.3%	12.4%	10.7%	6.7%	7.3%	7.5%	5.2%	4.9%	8.8%	11.0%	6.4%
中年層男性	14.6%	15.9%	14.8%	15.9%	8.7%	8.6%	7.7%	9.9%	1.2%	3.5%	6.3%	5.5%
中年層女性	13.5%	13.0%	12.4%	11.7%	7.7%	7.0%	6.1%	6.0%	3.9%	9.0%	6.4%	7.2%
高年層男性	12.6%	14.2%	11.8%	11.9%	4.5%	5.9%	5.2%	5.6%	4.9%	9.4%	9.1%	9.6%
高年層女性	9.7%	9.8%	10.2%	10.2%	4.3%	5.4%	4.9%	5.2%	10.2%	19.5%	16.8%	14.3%

(2) 回答の変化(H23・H24・H25・H26の比較)

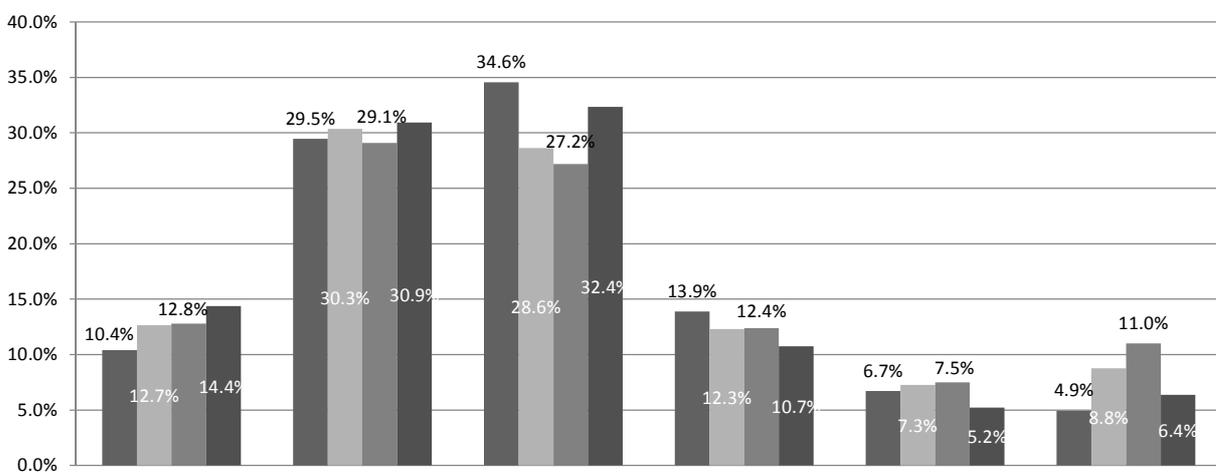
・市全体



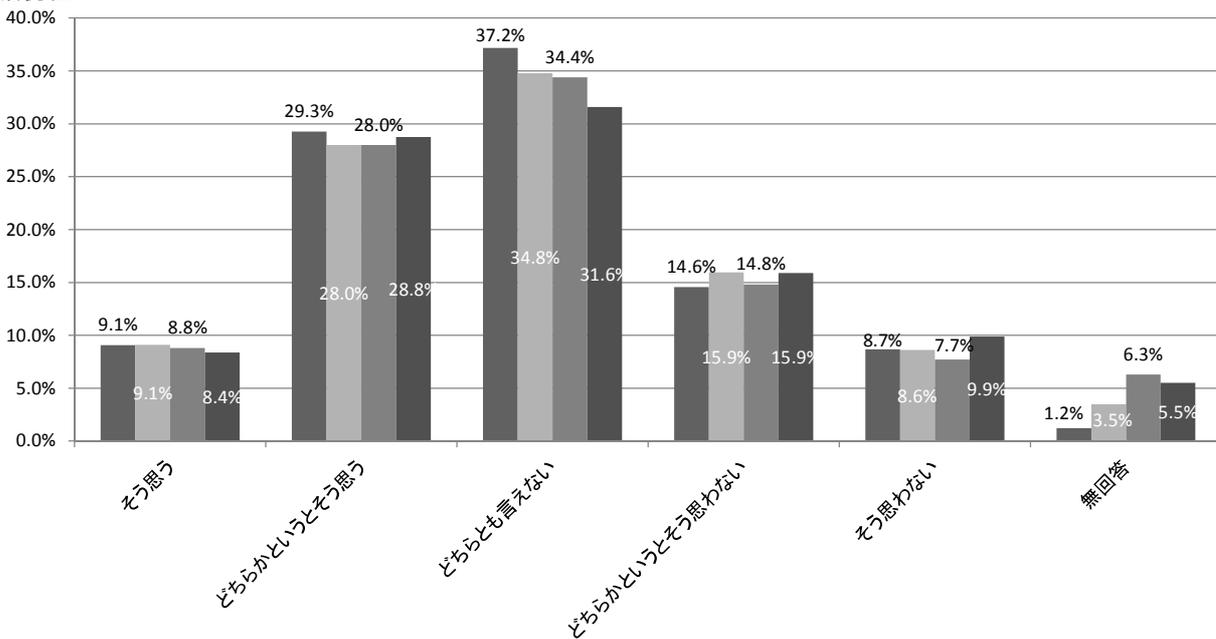
・若年層男性



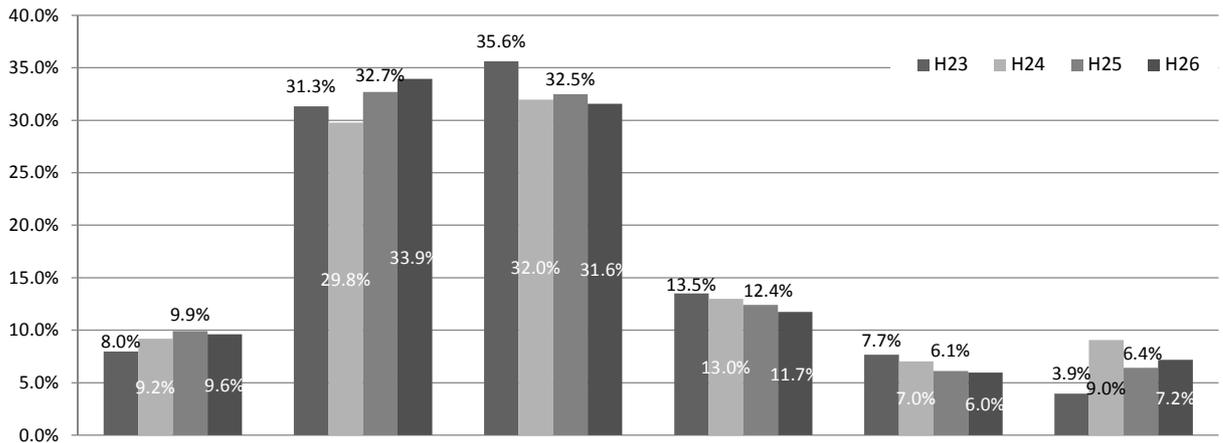
・若年層女性



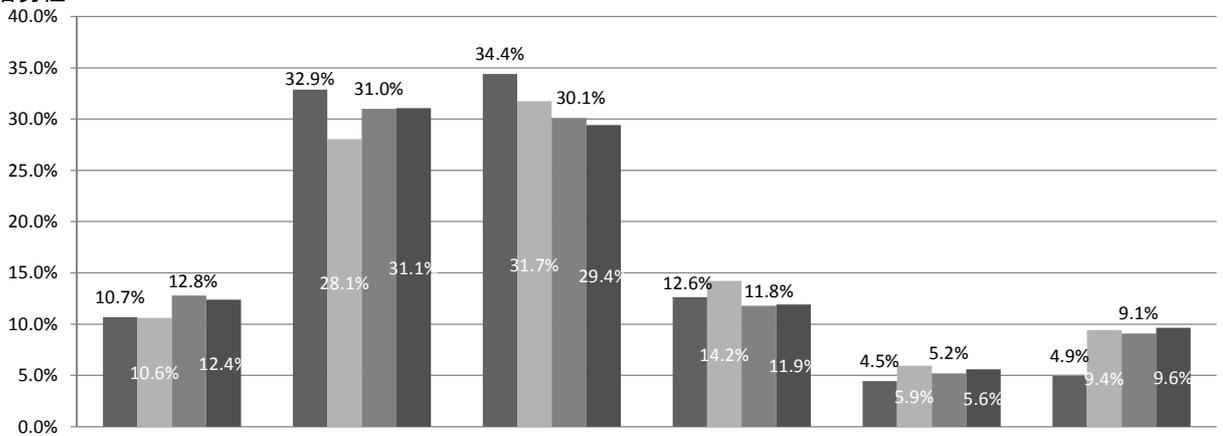
・中年層男性



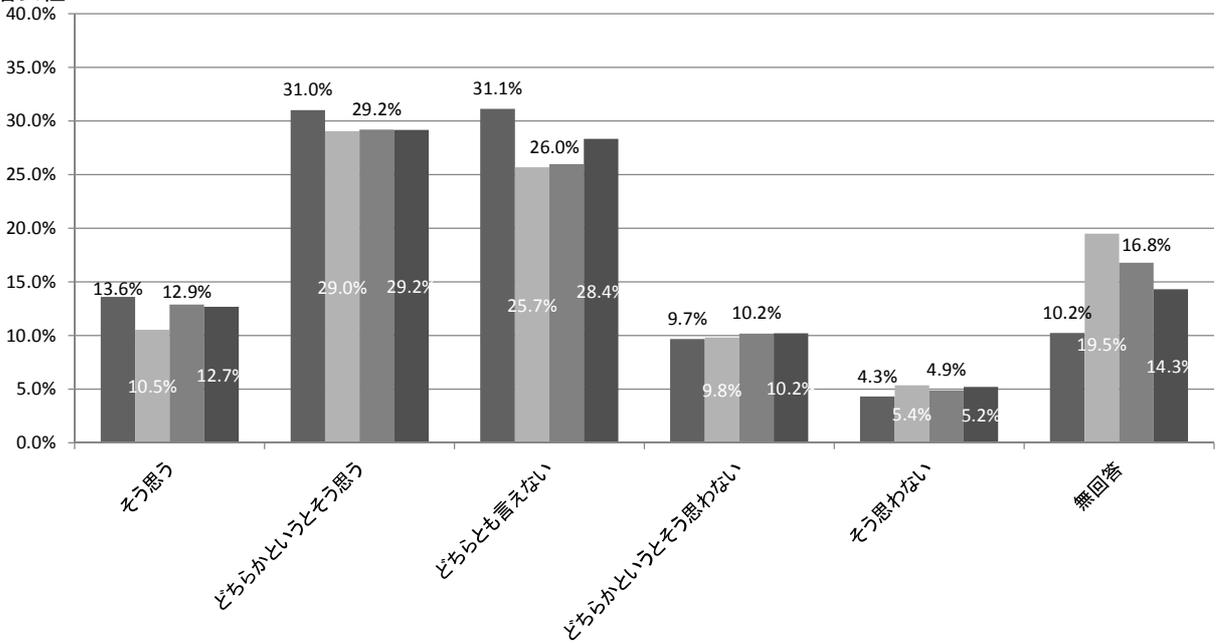
・中年層女性



・高年層男性



・高年層女性



2 政策重要度

政策分野別の前年度(平成25年度)との対比

政策分野	市全体			若年層男性			若年層女性			中年層男性			中年層女性			高年層男性			高年層女性		
	肯定的回答 (H25)	(H26)	順位																		
環境	88.7%	89.0%	3	83.3%	86.4%	3	92.7%	89.7%	2	85.2%	87.8%	3	91.9%	89.7%	3	85.7%	90.3%	2	89.8%	88.7%	3
人権・男女共同参画	81.6%	82.8%	9	66.7%	83.3%	7	89.1%	87.6%	5	74.8%	75.6%	16	84.2%	86.5%	7	83.1%	82.3%	9	81.9%	81.4%	15
青少年の成長と参加	82.2%	81.4%	12	72.6%	80.3%	13	82.4%	77.9%	13	80.9%	77.2%	14	85.6%	84.3%	8	82.7%	80.5%	15	82.6%	83.9%	11
市民生活とコミュニティ	81.3%	79.1%	15	79.8%	66.7%	19	78.2%	77.2%	14	80.0%	72.4%	20	80.9%	84.3%	9	85.3%	81.0%	12	81.3%	81.0%	16
市民生活の安全	88.1%	88.6%	4	84.5%	89.4%	2	86.1%	89.0%	4	87.0%	87.0%	4	89.5%	90.1%	2	90.9%	89.4%	3	87.8%	87.8%	4
文化	77.1%	77.6%	18	75.0%	83.3%	8	72.7%	72.4%	21	77.4%	81.3%	9	79.4%	77.1%	20	77.5%	79.2%	17	78.0%	76.8%	21
スポーツ	63.9%	64.3%	26	60.7%	47.0%	27	52.1%	58.6%	27	59.1%	61.8%	27	64.6%	60.1%	27	73.6%	71.2%	25	63.8%	69.5%	25
産業・商業	70.6%	67.7%	25	78.6%	57.6%	25	59.4%	69.0%	23	73.0%	75.6%	17	71.3%	65.9%	24	77.1%	70.4%	26	67.8%	65.6%	26
観光	77.7%	78.4%	16	78.6%	81.8%	10	67.9%	73.8%	17	73.0%	79.7%	12	75.6%	75.3%	21	81.8%	80.1%	16	82.6%	80.4%	17
農林業	70.5%	69.7%	24	66.7%	62.1%	24	65.5%	68.3%	24	71.3%	67.5%	25	69.9%	64.6%	25	71.0%	73.9%	22	74.0%	74.0%	23
大学	68.2%	70.0%	23	63.1%	69.7%	17	53.3%	62.1%	26	67.0%	69.1%	24	71.3%	70.9%	23	75.3%	73.0%	23	70.7%	72.0%	24
国際化	75.7%	77.2%	19	75.0%	75.8%	16	66.7%	71.0%	22	70.4%	69.9%	23	80.4%	80.7%	17	77.5%	81.0%	13	78.6%	78.5%	19
子育て支援	85.4%	84.3%	7	88.1%	86.4%	5	88.5%	87.6%	6	81.7%	79.7%	13	84.2%	83.9%	11	84.8%	83.2%	8	85.9%	86.2%	6
障害者福祉	85.1%	84.9%	6	75.0%	81.8%	11	82.4%	84.1%	9	80.9%	81.3%	10	86.6%	89.7%	4	86.6%	83.6%	7	88.8%	85.5%	7
地域福祉	72.6%	72.9%	22	72.6%	57.6%	26	62.4%	73.8%	18	71.3%	72.4%	21	77.5%	78.5%	18	74.0%	72.6%	24	77.3%	74.0%	22
高齢者福祉	78.6%	80.0%	14	70.2%	66.7%	20	67.9%	73.8%	19	78.3%	83.7%	7	81.3%	84.3%	10	82.3%	81.9%	11	84.5%	81.7%	14
保健衛生・医療	84.8%	85.4%	5	81.0%	86.4%	4	84.2%	87.6%	7	81.7%	84.6%	5	85.2%	87.4%	6	86.6%	84.5%	6	87.8%	85.5%	9
学校教育	84.7%	82.6%	10	86.9%	80.3%	14	81.8%	85.5%	8	80.0%	83.7%	8	85.6%	83.0%	12	86.1%	79.2%	18	88.5%	85.5%	10
生涯学習	77.0%	76.7%	20	76.2%	65.2%	22	75.2%	82.8%	10	70.4%	73.2%	19	77.0%	81.2%	16	81.4%	75.7%	21	80.6%	77.5%	20
歩くまち	73.3%	75.7%	21	69.0%	63.6%	23	67.3%	73.1%	20	66.1%	71.5%	22	72.2%	74.0%	22	77.9%	81.0%	14	80.3%	79.7%	18
土地利用と都市機能配置	62.5%	63.3%	27	60.7%	65.2%	21	64.2%	65.5%	25	60.0%	63.4%	26	61.7%	64.6%	26	67.1%	62.8%	27	63.2%	63.0%	27
景観	80.6%	81.1%	13	78.6%	90.9%	1	79.4%	78.6%	12	80.0%	76.4%	15	81.8%	81.6%	15	83.5%	82.3%	10	80.9%	82.6%	12
建築物	80.6%	82.3%	11	77.4%	80.3%	15	79.4%	80.0%	11	76.5%	80.5%	11	81.3%	83.0%	13	83.1%	79.2%	19	83.2%	87.8%	5
住宅	75.5%	77.7%	17	76.2%	69.7%	18	70.3%	74.5%	16	74.8%	74.8%	18	76.1%	78.5%	19	76.6%	79.2%	20	79.3%	82.3%	13
道と緑	83.6%	83.1%	8	79.8%	80.3%	12	82.4%	76.6%	15	81.7%	84.6%	6	84.7%	83.0%	14	83.5%	86.3%	5	87.8%	85.5%	8
消防・防災	90.9%	90.5%	1	88.1%	84.8%	6	89.7%	91.7%	1	90.4%	92.7%	2	93.3%	90.6%	1	93.1%	91.2%	1	91.8%	92.0%	2
くらしの水	90.1%	89.9%	2	88.1%	83.3%	9	84.2%	89.7%	3	85.2%	94.3%	1	93.3%	88.3%	5	93.1%	89.4%	4	93.8%	92.9%	1
平均	78.9%	79.1%		76.0%	75.0%		75.0%	77.8%		76.2%	77.8%		80.2%	80.0%		81.5%	80.2%		81.2%	80.8%	

※ 網掛けは市全体の上位3分野と下位3分野を示している。

3 生活実感と政策重要度における肯定的割合の順位(市全体)

順位	生活実感		政策重要度	
	政策分野	肯定的割合	政策分野	肯定的割合
1	保健衛生・医療	62.2%	消防・防災	90.5%
2	観光	61.2%	くらしの水	89.9%
3	くらしの水	60.7%	環境	89.0%
4	景観	60.4%	市民生活の安全	88.6%
5	文化	57.1%	保健衛生・医療	85.4%
6	大学	55.8%	障害者福祉	84.9%
7	国際化	54.3%	子育て支援	84.3%
8	環境	50.1%	道と緑	83.1%
9	消防・防災	49.0%	人権・男女共同参画	82.8%
10	土地利用と都市機能配置	47.5%	学校教育	82.6%
11	歩くまち	46.7%	建築物	82.3%
12	道と緑	44.8%	青少年の成長と参加	81.4%
13	生涯学習	41.0%	景観	81.1%
14	市民生活とコミュニティ	38.4%	高齢者福祉	80.0%
15	産業・商業	38.4%	市民生活とコミュニティ	79.1%
16	学校教育	38.4%	観光	78.4%
17	子育て支援	37.3%	住宅	77.7%
18	高齢者福祉	36.3%	文化	77.6%
19	建築物	34.1%	国際化	77.2%
20	スポーツ	30.5%	生涯学習	76.7%
21	市民生活の安全	30.3%	歩くまち	75.7%
22	地域福祉	30.2%	地域福祉	72.9%
23	障害者福祉	26.6%	大学	70.0%
24	住宅	24.4%	農林業	69.7%
25	人権・男女共同参画	23.8%	産業・商業	67.7%
26	農林業	14.4%	スポーツ	64.3%
27	青少年の成長と参加	13.9%	土地利用と都市機能配置	63.3%

※ 網掛けは生活実感と政策重要度の順位が著しく乖離している分野を示している。

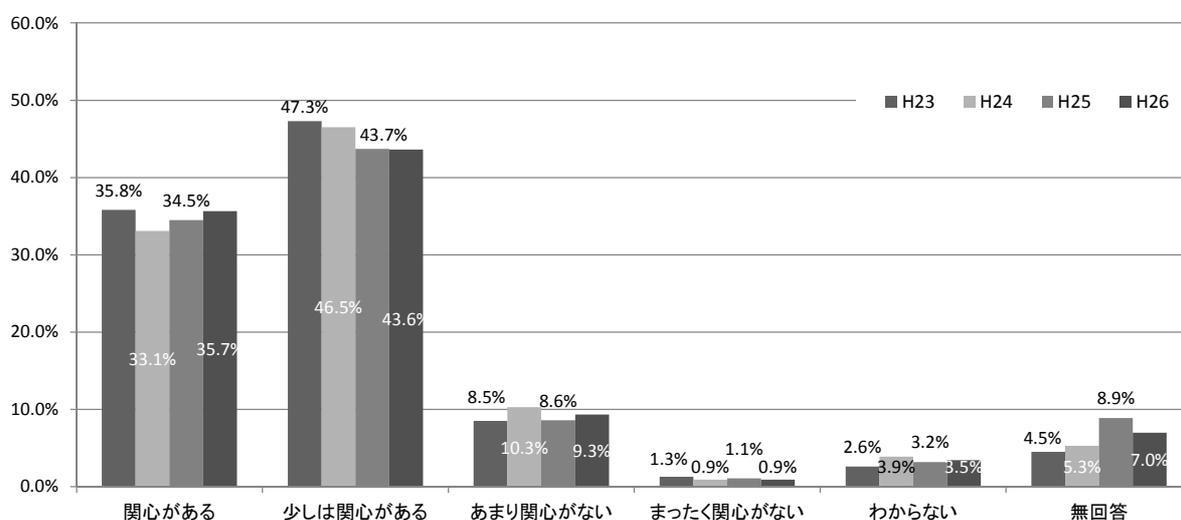
4 市政関心度
(1)4年間の集計

	関心がある				少しは関心がある				あまり関心がない			
	H23	H24	H25	H26	H23	H24	H25	H26	H23	H24	H25	H26
市全体	35.8%	33.1%	34.5%	35.7%	47.3%	46.5%	43.7%	43.6%	8.5%	10.3%	8.6%	9.3%
若年層男性	40.0%	36.7%	28.6%	30.3%	41.1%	48.9%	48.8%	40.9%	11.1%	10.0%	14.3%	16.7%
若年層女性	26.7%	25.8%	21.8%	21.4%	49.1%	50.5%	49.1%	53.1%	12.7%	13.7%	13.3%	16.6%
中年層男性	29.1%	36.5%	40.9%	36.6%	54.5%	46.5%	36.5%	43.1%	9.7%	9.4%	9.6%	8.9%
中年層女性	28.4%	28.0%	28.2%	25.6%	54.6%	52.3%	55.0%	52.9%	11.0%	11.5%	8.1%	10.8%
高年層男性	46.6%	40.9%	47.6%	47.3%	41.8%	38.4%	32.9%	34.5%	2.9%	9.1%	9.1%	5.3%
高年層女性	40.4%	32.4%	36.2%	42.4%	43.6%	45.5%	43.8%	39.6%	6.8%	8.7%	4.6%	6.3%

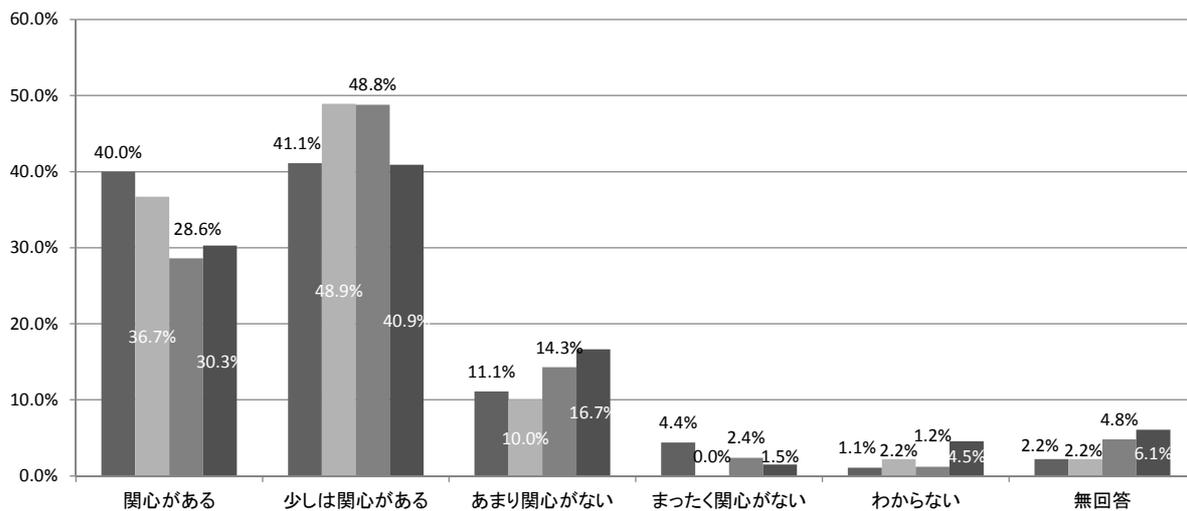
	まったく関心がない				わからない				無回答			
	H23	H24	H25	H26	H23	H24	H25	H26	H23	H24	H25	H26
市全体	1.3%	0.9%	1.1%	0.9%	2.6%	3.9%	3.2%	3.5%	4.5%	5.3%	8.9%	7.0%
若年層男性	4.4%	0.0%	2.4%	1.5%	1.1%	2.2%	1.2%	4.5%	2.2%	2.2%	4.8%	6.1%
若年層女性	3.6%	1.1%	1.8%	1.4%	6.7%	4.4%	9.7%	4.1%	1.2%	4.4%	4.2%	3.4%
中年層男性	2.2%	1.9%	1.7%	1.6%	1.5%	1.9%	6.1%	0.0%	3.0%	3.8%	5.2%	9.8%
中年層女性	0.0%	0.5%	1.4%	1.8%	1.8%	5.5%	1.9%	4.5%	4.1%	2.3%	5.3%	4.5%
高年層男性	1.0%	1.3%	0.4%	0.4%	1.9%	3.4%	0.9%	2.2%	5.8%	6.9%	9.1%	10.2%
高年層女性	0.0%	0.4%	0.7%	0.0%	2.3%	4.4%	2.0%	4.5%	6.8%	8.7%	12.8%	7.3%

(2) 肯定的回答の変化(H23・H24・H25・H26の比較)

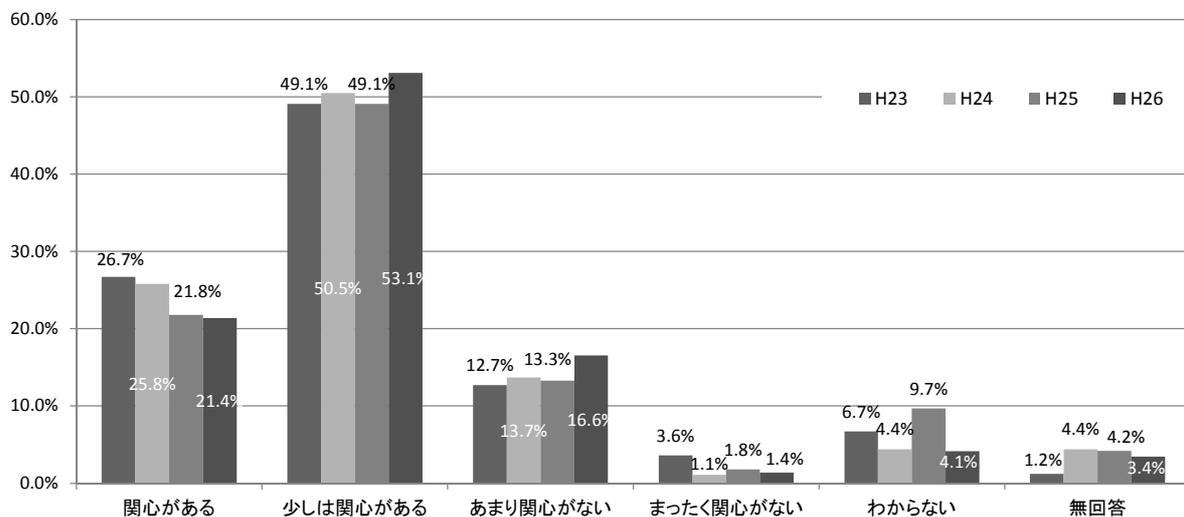
・市全体



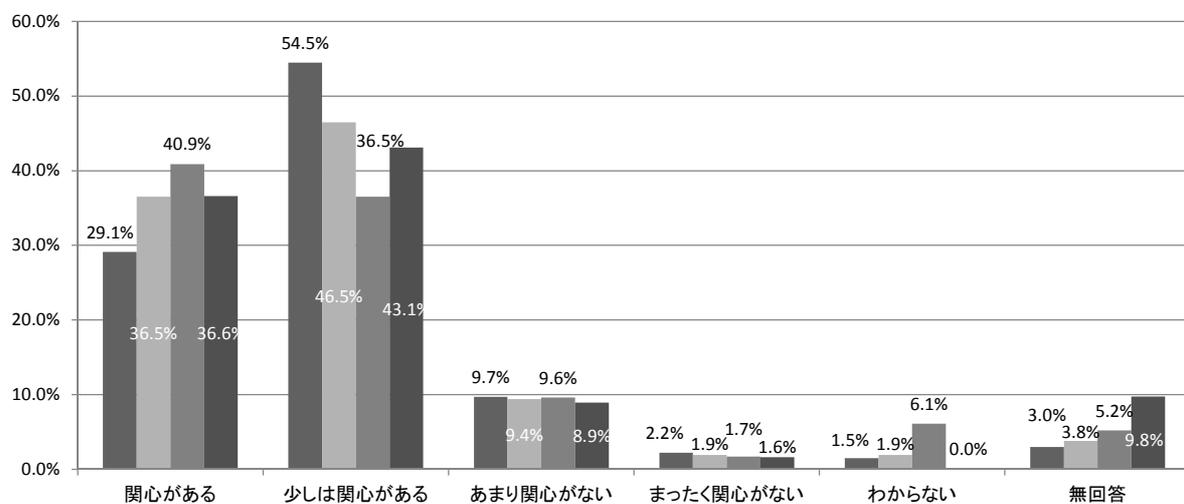
・若年層男性



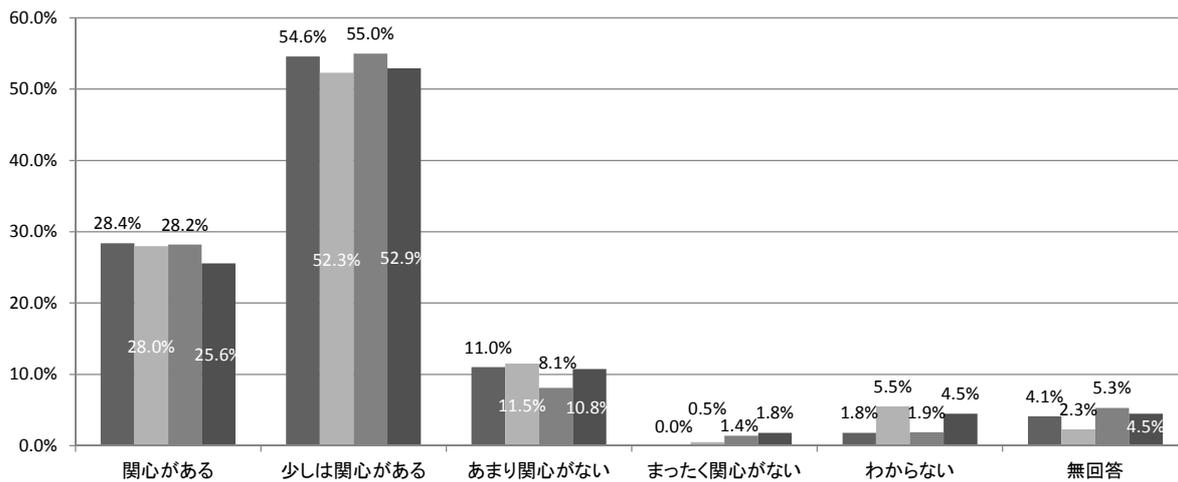
・若年層女性



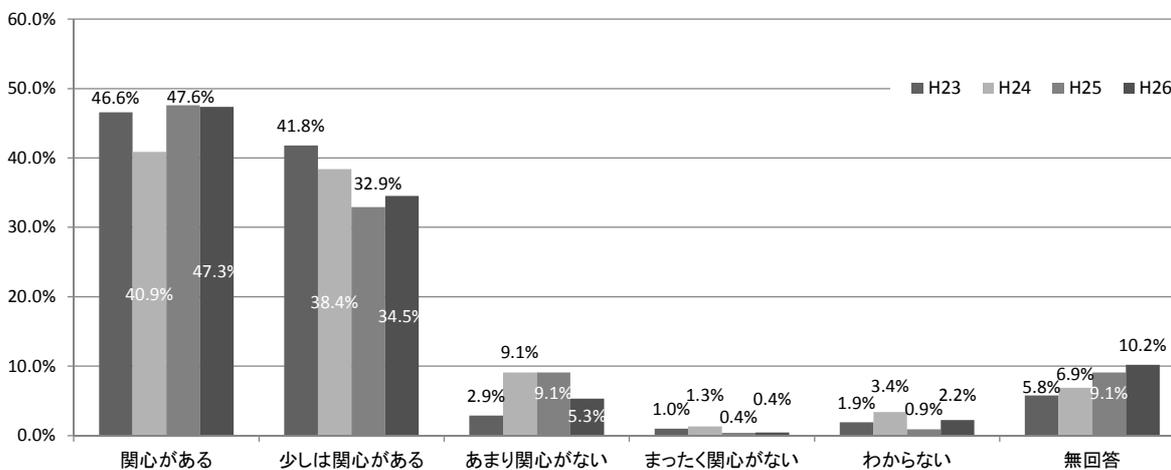
・中年層男性



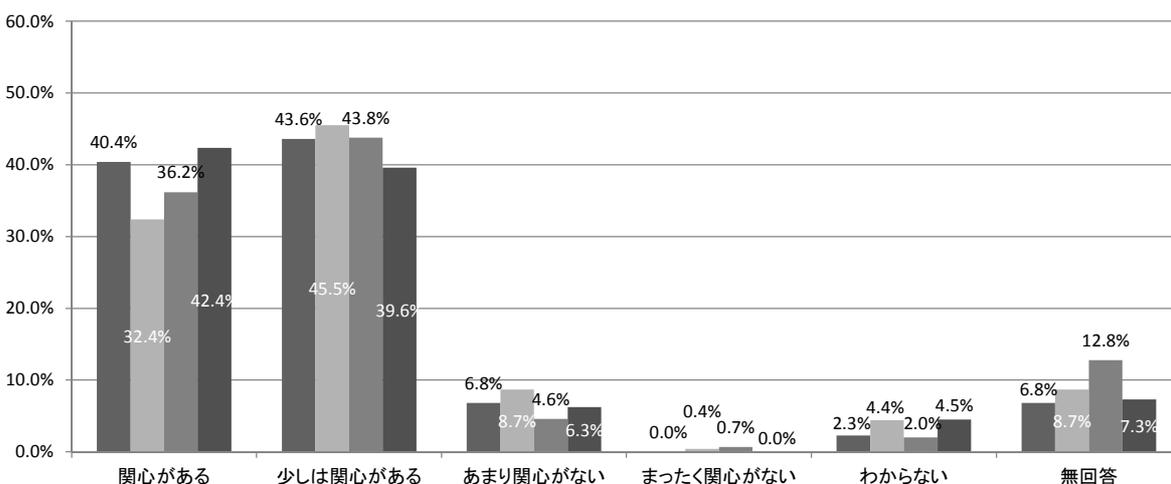
・中年層女性



・高年層男性



・高年層女性

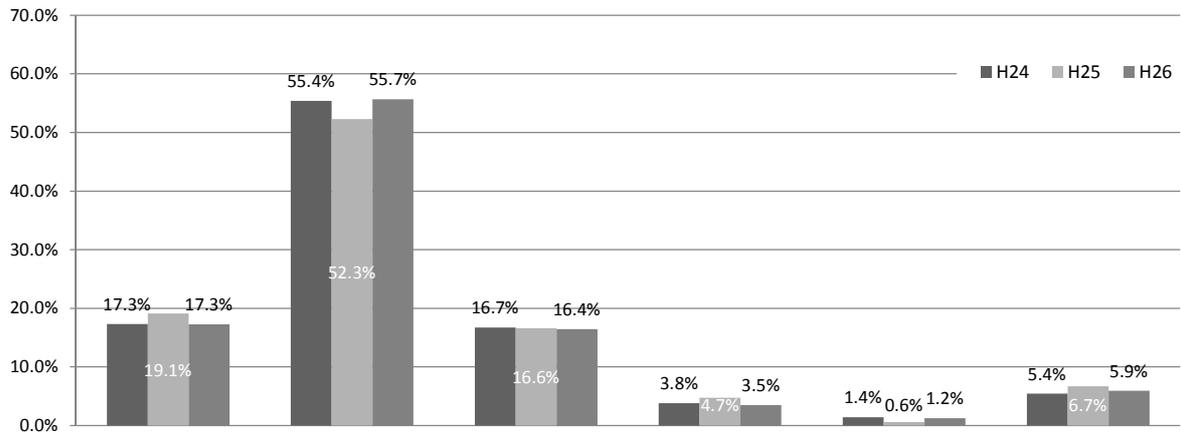


5 幸福実感
(1)3年間の集計

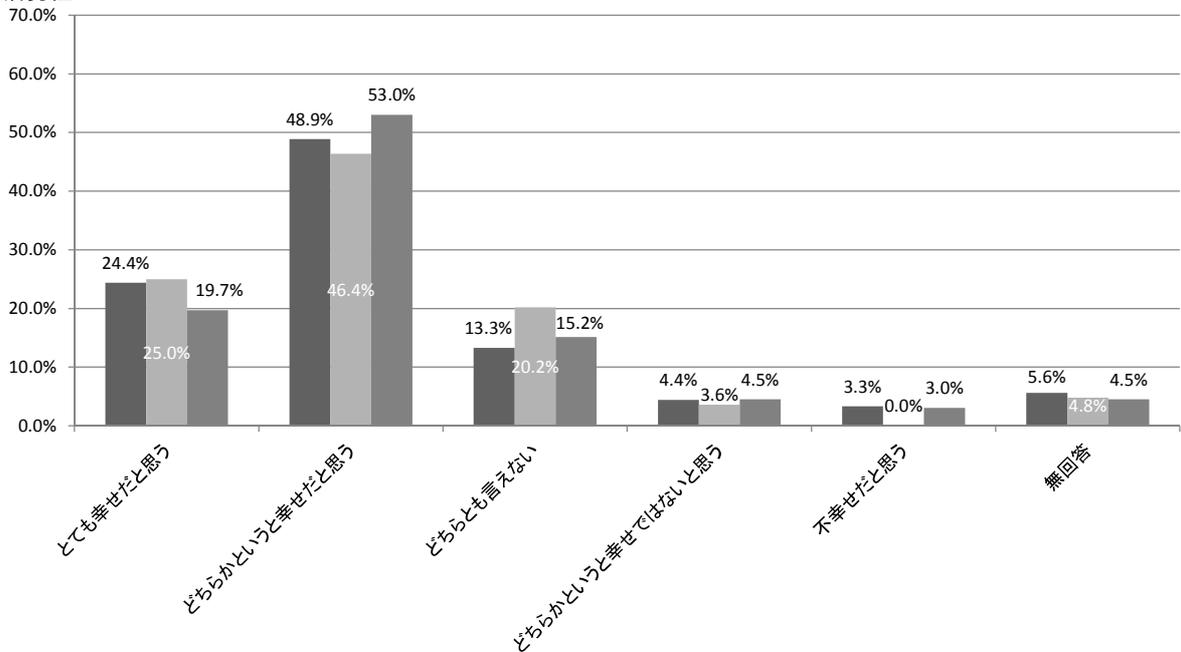
	とても幸せだと思う			どちらかという 幸せだと思う			どちらとも言えない			どちらかという 幸せではないと思う			不幸せだと思う			無回答		
	H24	H25	H26	H24	H25	H26	H24	H25	H26	H24	H25	H26	H24	H25	H26	H24	H25	H26
市全体	17.3%	19.1%	17.3%	55.4%	52.3%	55.7%	16.7%	16.6%	16.4%	3.8%	4.7%	3.5%	1.4%	0.6%	1.2%	5.4%	6.7%	5.9%
若年層男性	24.4%	25.0%	19.7%	48.9%	46.4%	53.0%	13.3%	20.2%	15.2%	4.4%	3.6%	4.5%	3.3%	0.0%	3.0%	5.6%	4.8%	4.5%
若年層女性	26.4%	30.3%	24.1%	57.1%	52.1%	60.7%	11.0%	10.3%	6.9%	2.2%	6.1%	3.4%	2.7%	0.6%	0.7%	0.5%	0.6%	4.1%
中年層男性	16.4%	13.9%	17.9%	47.8%	53.9%	48.8%	25.8%	20.0%	21.1%	6.3%	7.8%	4.9%	1.9%	1.7%	2.4%	1.9%	2.6%	4.9%
中年層女性	17.9%	19.1%	16.6%	61.5%	60.8%	63.7%	12.8%	13.9%	13.0%	3.2%	4.3%	2.7%	0.9%	0.5%	0.9%	3.7%	1.4%	3.1%
高年層男性	9.5%	17.3%	14.6%	57.3%	49.4%	51.3%	22.0%	20.3%	20.4%	3.0%	3.5%	4.0%	0.9%	0.4%	0.9%	7.3%	9.1%	8.8%
高年層女性	17.5%	16.1%	15.6%	58.2%	53.0%	53.9%	14.9%	16.4%	19.1%	4.0%	3.6%	2.8%	0.4%	0.7%	1.1%	5.1%	10.2%	7.4%

(2) 肯定的回答の変化(H24・H25・H26の比較)

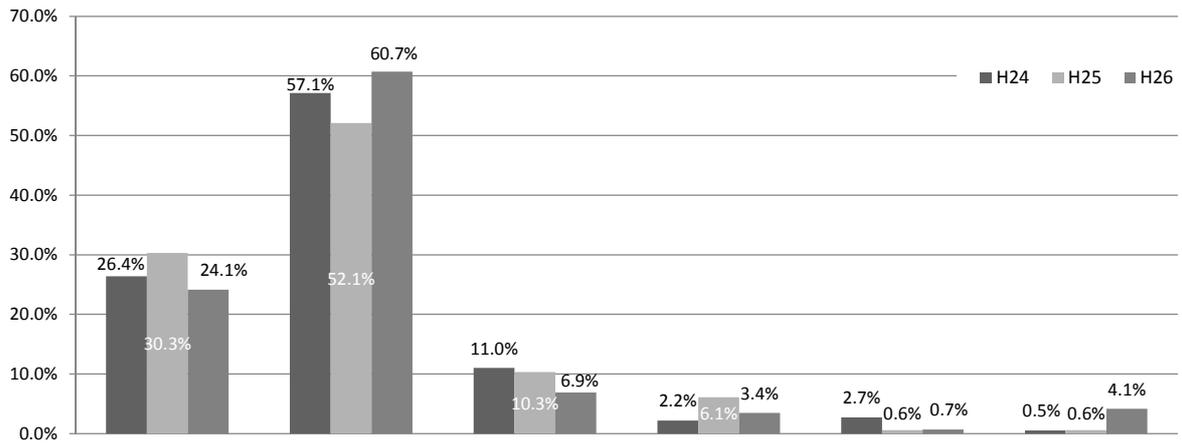
・市全体



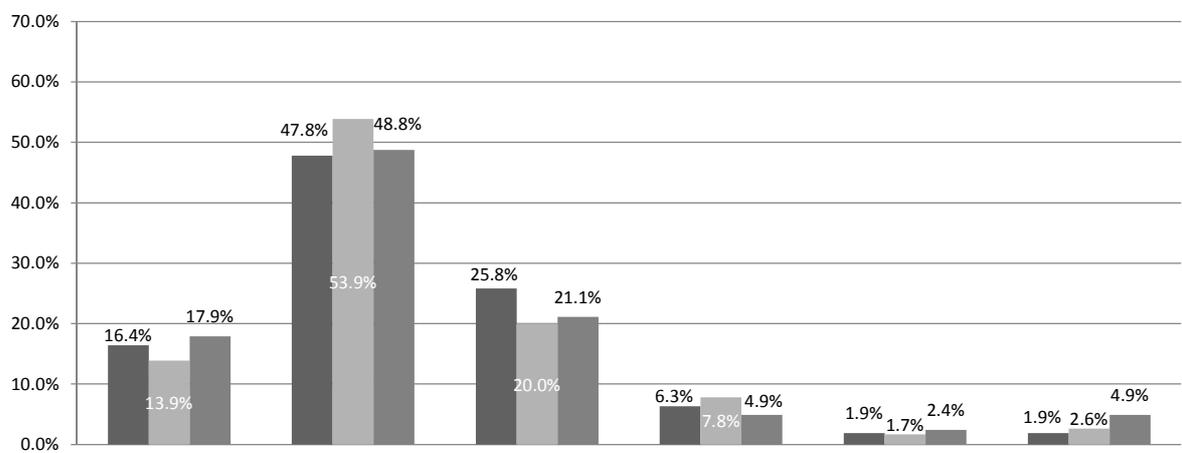
・若年層男性



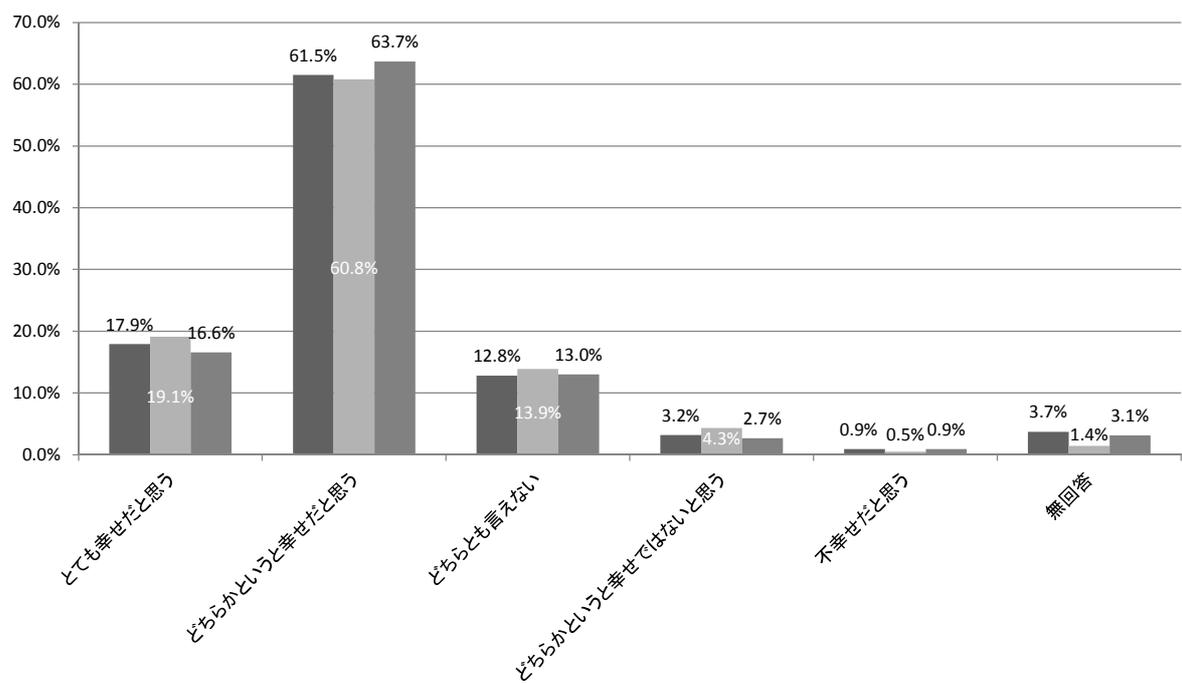
・若年層女性



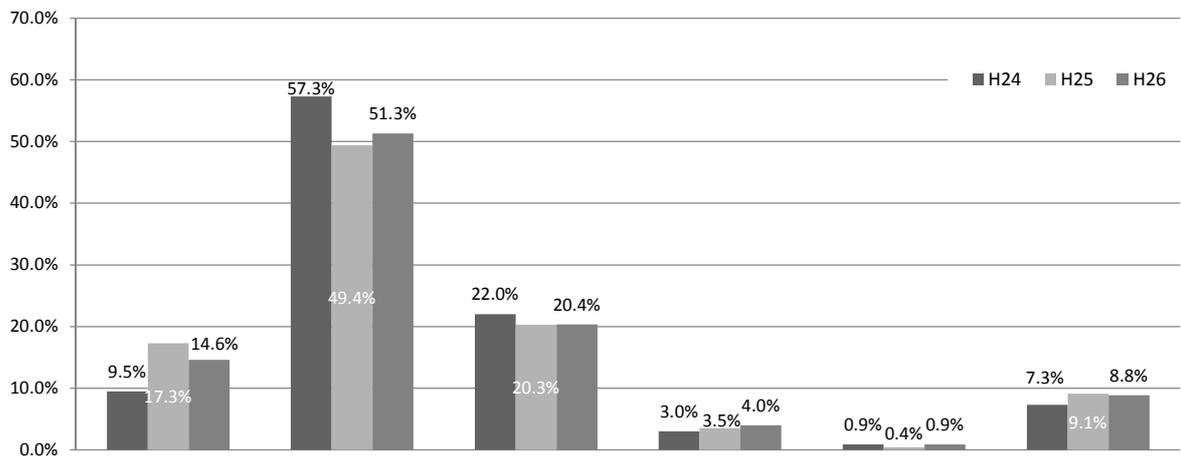
・中年層男性



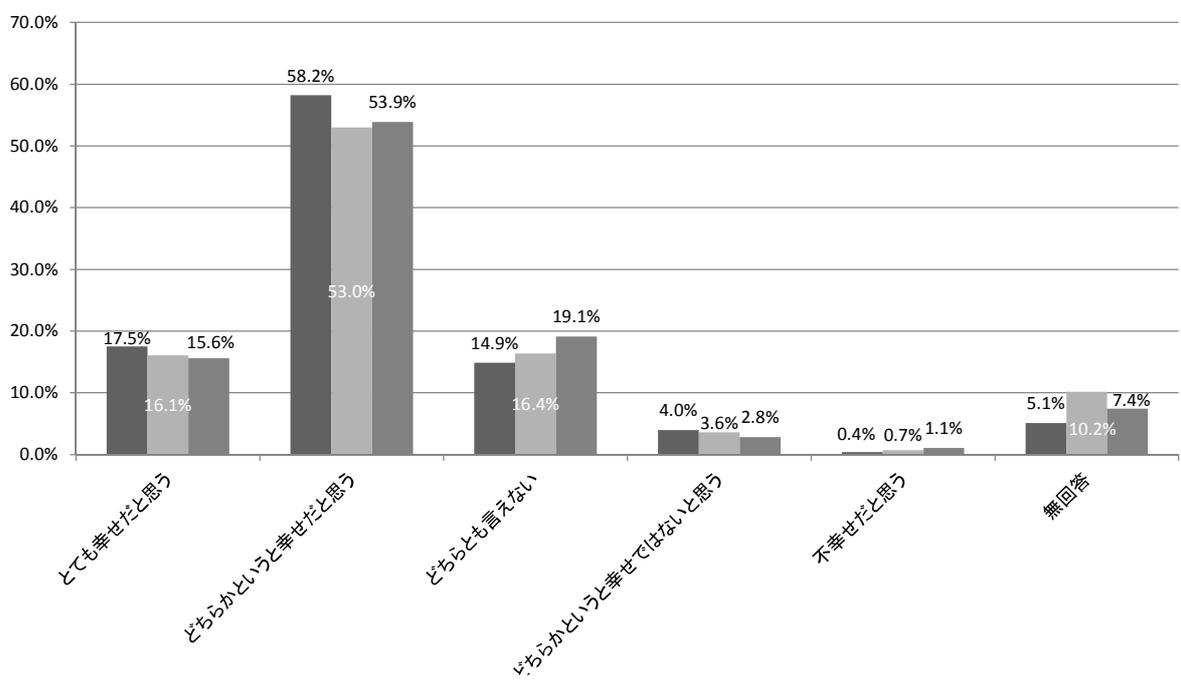
・中年層女性



・高年層男性



・高年層女性



Ⅲ 統計的分析手法を用いた分析について

Ⅲ 統計的分析手法を用いた分析について

市民生活実感調査の回答結果に対し、統計的分析手法を用いて、以下の三つの分析を行った。

1 生活実感における過去3年平均との比較について<資料7>

生活実感に関する130の設問について、今年度の生活実感の値と過去3年の平均値を比べて、上昇であれ、下降であれ、変化の幅が誤差の範囲を超えて顕著な変化を示したものがあるかどうかの分析を行った。該当する場合には注意を要する。その原因を究明し、今後の施策・事業につなげていくことが望まれる。

今年の回答状況が過去3年平均の回答状況と比べて、偶然ではなく、なんらかの要因により必然的に起こった変化と考えられる設問を把握するため、統計的分析手法である「U検定」を用いた。

本分析においては有意水準1%に該当するものを「変化の幅が誤差の範囲を超えて著しく変化したもの」として取り上げている。

分析の結果、23の設問において顕著な変化が見られた。

これらのうち、市全体として顕著な変化を示した11の設問の中で、政策分野「くらしの水」中の設問「大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。」が唯一下降しているのが特徴的だった。この設問ではすべての世代別・性別においても生活実感が下降しているが、平成25年9月の台風18号により右京区や伏見区を中心に広範な地域で床上・床下浸水などの被害が発生したことが原因ではないかと考えられる。実際に、居住区別の分析結果においても、大きな浸水被害があった右京区と伏見区では肯定的割合が低いという結果が出ている（市全体の平均53.1%に対し、右京区は37.6%、伏見区は41.4%）。

また、世代別・性別においては、中年層男性で該当した3問すべてと高年層女性の4問中3問が下降したという状況が目をつけた。

生活実感における過去3年平均との比較において
 顕著な変化を示した設問のグラフ

※計23問該当

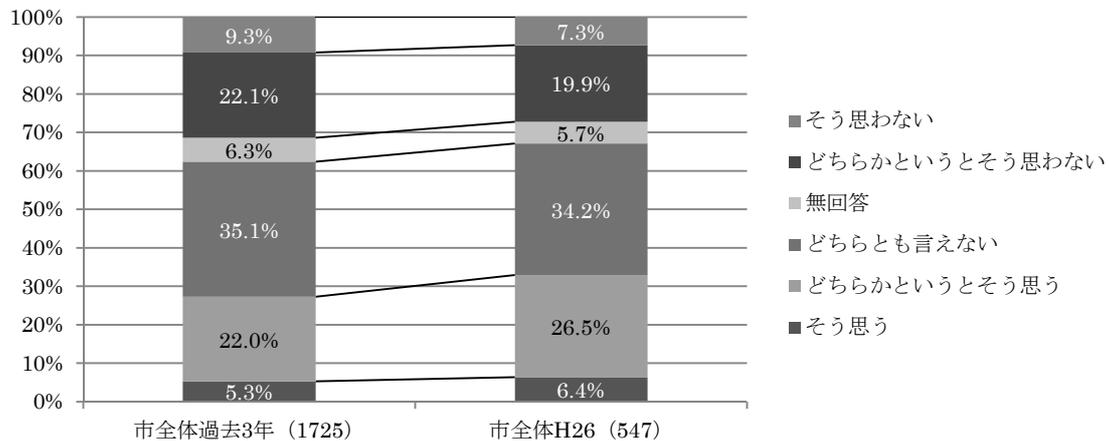
※太字は下降を示した設問

分野名	設問文 () 内は該当する世代別・性別	過去3年との比較
環境 (2問該当)	太陽光発電や使用済み天ぷら油の燃料化など、環境にやさしい技術やエネルギーの活用が進んでいる。(市全体)	上昇
	ごみを分別して出せる拠点が身近にあり、ごみのリサイクルが進んでいる。(高年層男性)	上昇
青少年の成長 と参加 (2問該当)	青少年が自分の生き方や将来像を思い描けている。(市全体)	上昇
	青少年の成長を支援する社会環境と青少年を受け入れる居場所がある。(市全体)	上昇
市民生活と コミュニティ (2問該当)	地域の一員として安心してくらするまちになっている。(市全体)	上昇
	地域のひとが、環境や子育て、青少年の育成などの地域の課題に、自分たちで取り組んでいる。(高年層女性)	下降
文化 (1問該当)	京都では、文化芸術にかかわる活動が盛んである。(中年層女性)	上昇
スポーツ (1問該当)	プロスポーツやトップレベルのスポーツに身近に触れる機会がある。(高年層女性)	下降
産業・商業 (2問該当)	京都の商業は盛んで楽しく買い物ができ、元気な商業者が多い。(中年層女性)	上昇
	働くことを希望するひとがいきいきと働ける場を得る機会がある。(市全体)	上昇
観光 (1問該当)	子ども連れの家族や若者、ビジネス客など、新たな京都ファンが増えている。(若年層男性)	上昇
農林業 (2問該当)	京都の農林業が魅力を増し、後継者や新たな担い手が育っている。(市全体)	上昇
	市民農園や森林を守る運動、学校の体験学習などにより、京都の農林業が身近になってきている。(市全体・中年層女性)	ともに 上昇
大学 (2問該当)	京都では、世界から留学生や研究者が集まり、国際社会で活躍する人材が育っている。(若年層女性)	上昇
	学生は、京都において社会で活躍する力を養い、そのパワーで京都のまちを活性化している。(市全体)	上昇

国際化 (2問該当)	京都には、世界から観光、留学、ビジネス等を目的として訪れるひとびとを引き寄せる魅力と、受入環境がある。(市全体・若年層男性)	ともに 上昇
	京都は、文化資産の継承、環境にやさしい取組などを通して、平和都市として国際社会に貢献している。(若年層女性)	上昇
保健衛生・医療 (1問該当)	感染症や食中毒等の健康危機に対し、安全と安心が確保されている。(市全体・高年層男性)	ともに 上昇
学校教育 (1問該当)	子どもたちが参加できる、さまざまな学びやスポーツ、体験活動の機会がある。(中年層男性)	下降
生涯学習 (1問該当)	生涯にわたって自ら学習したことが、仕事や社会活動に役立っている。(高年層女性)	上昇
住宅 (1問該当)	長く大切に使える住宅が増えている。(若年層女性)	上昇
くらしの水 (2問該当)	大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。(市全体・若年層男性・若年層女性・中年層男性・中年層女性・高年層男性・高年層女性)	すべて 下降
	水や水辺環境が大切にされるなど、水と共に生きる意識が高まっている。(中年層男性)	下降

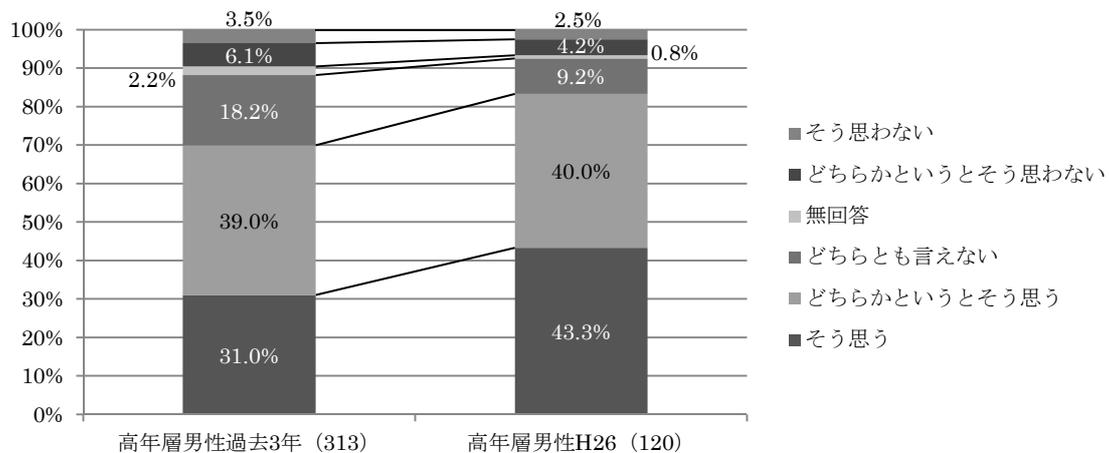
1 環境（2問該当）

(1) 太陽光発電や使用済み天ぷら油の燃料化など、環境にやさしい技術やエネルギーの活用が進んでいる。(市全体) **上昇**



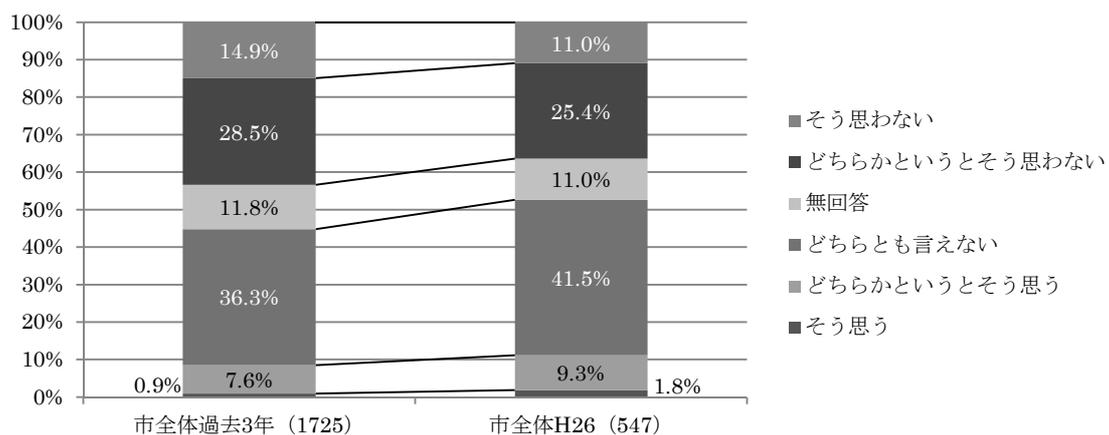
(2) ごみを分別して出せる拠点が身近にあり、ごみのリサイクルが進んでいる。

(高年層男性) **上昇**

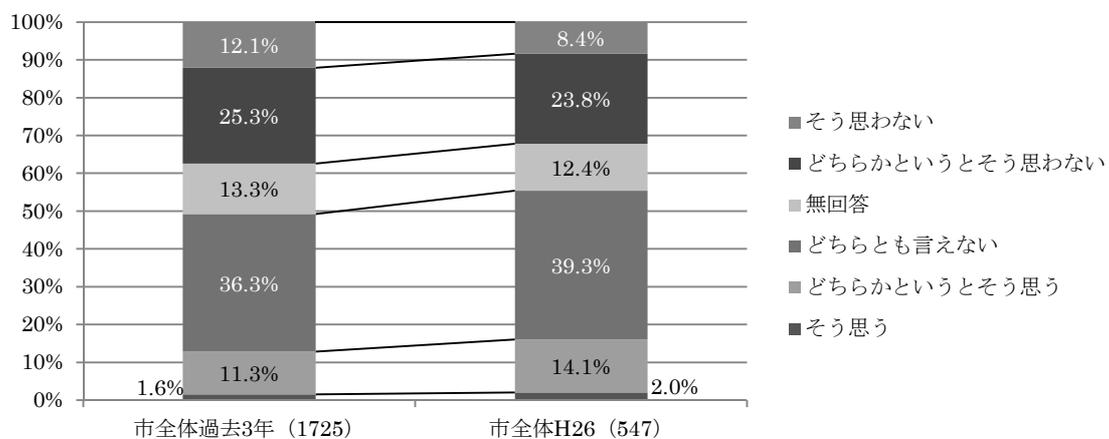


3 青少年の成長と参加 (2問該当)

(1) 青少年が自分の生き方や将来像を思い描けている。(市全体) **上昇**

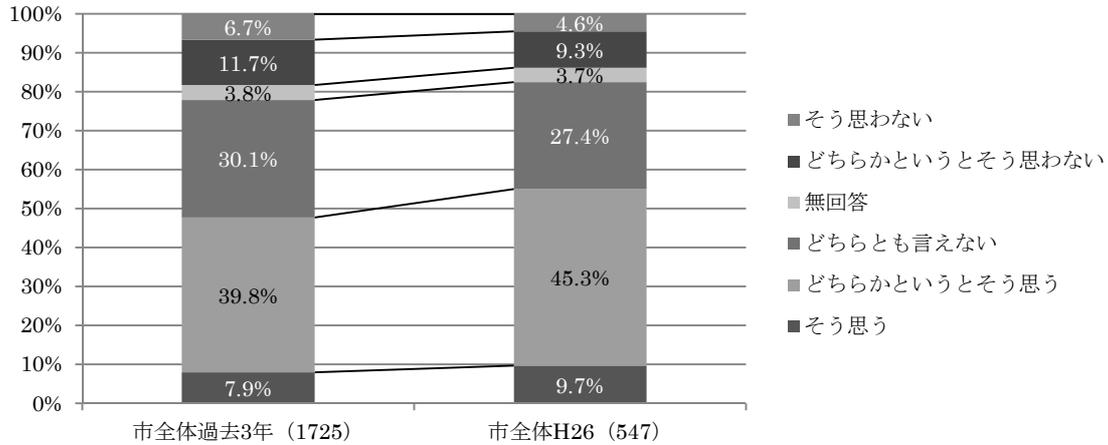


(2) 青少年の成長を支援する社会環境と青少年を受け入れる居場所がある。(市全体) **上昇**

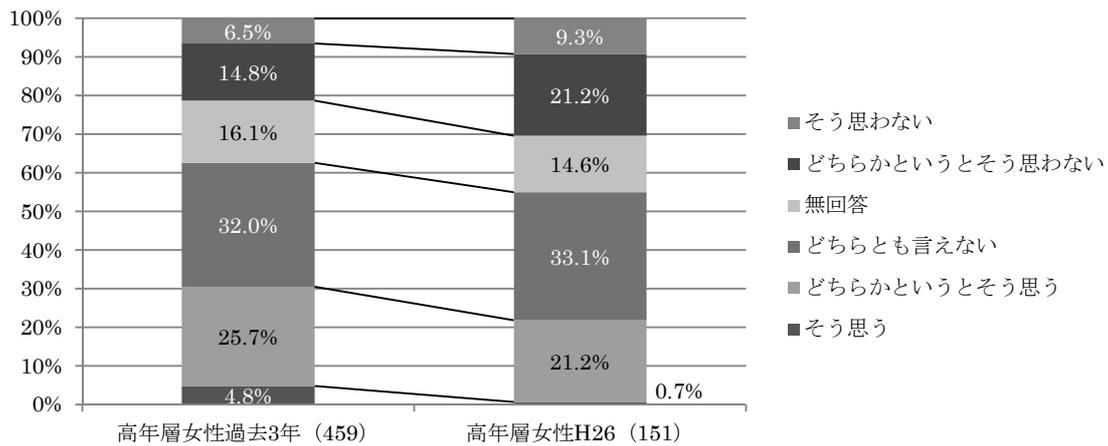


4 市民生活とコミュニティ（2問該当）

(1) 地域の一員として安心してらせるまちになっている。(市全体) **上昇**

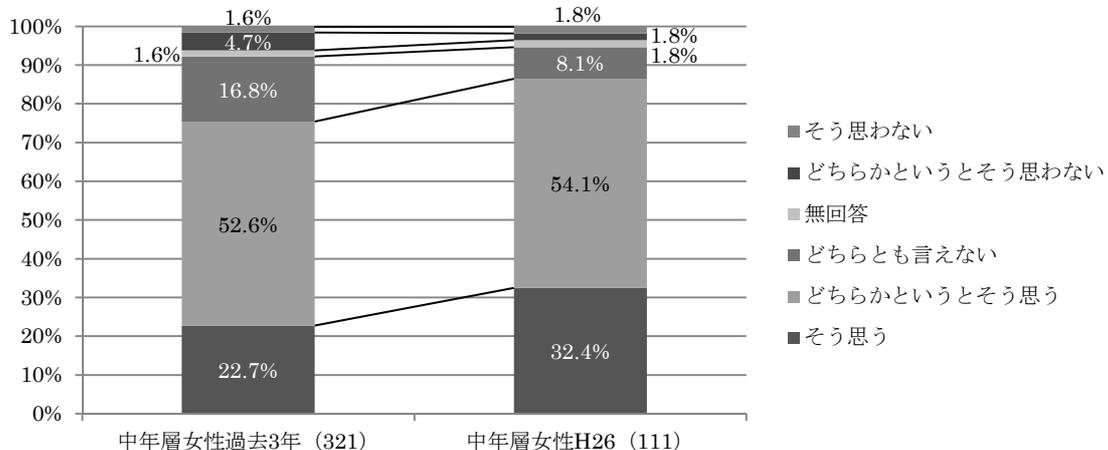


(2) 地域のひとが、環境や子育て、青少年の育成などの地域の課題に、自分たちで取り組んでいる。(高年層女性) **下降**



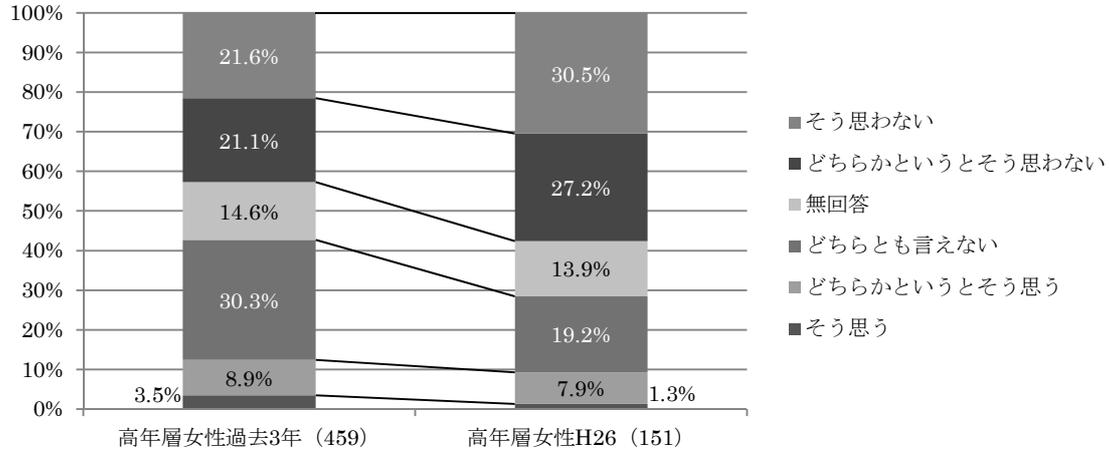
6 文化（1問該当）

京都では、文化芸術にかかわる活動が盛んである。(中年層女性) **上昇**



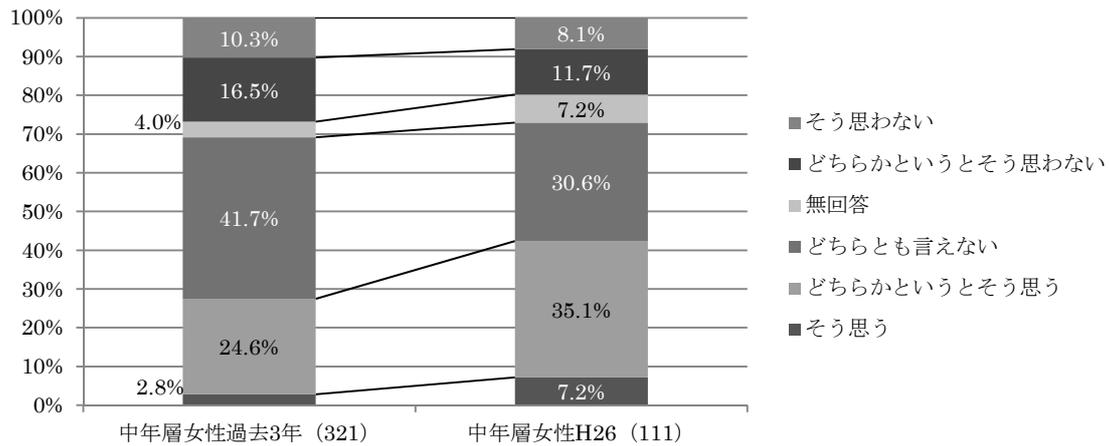
7 スポーツ（1問該当）

プロスポーツやトップレベルのスポーツに身近に触れる機会がある。（高年層女性） **下降**

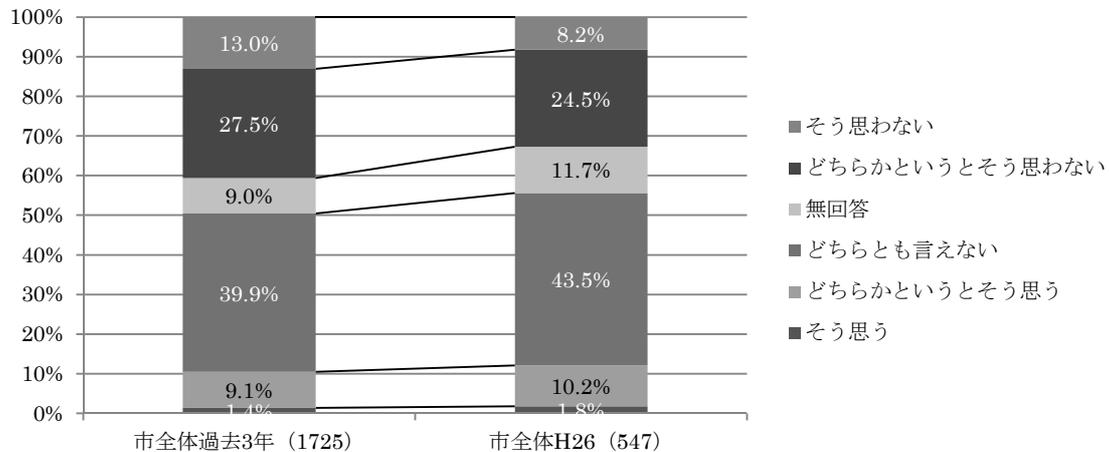


8 産業・商業（2問該当）

(1) 京都の商業は盛んで楽しく買い物ができ、元気な商業者が多い。（中年層女性） **上昇**



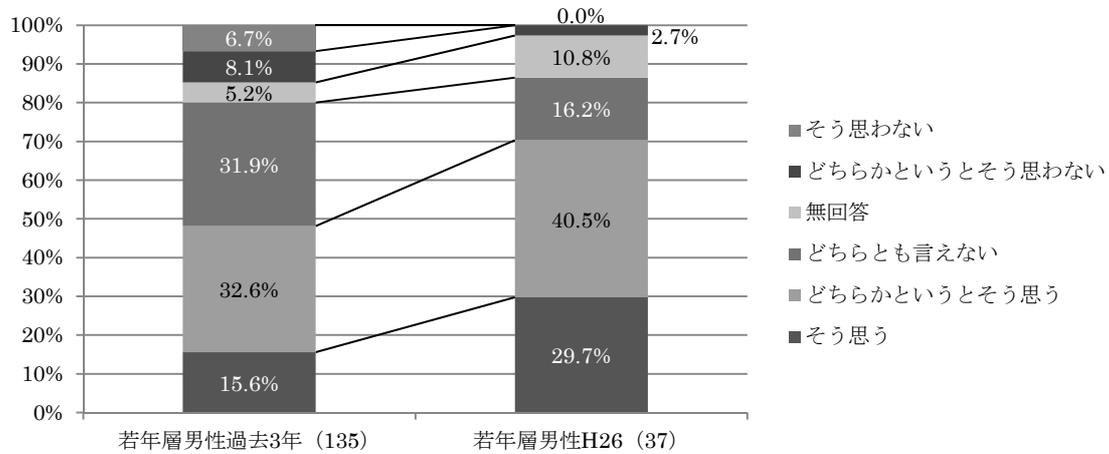
(2) 働くことを希望するひとがいきいきと働ける場を得る機会がある。（市全体） **上昇**



9 観光（1問該当）

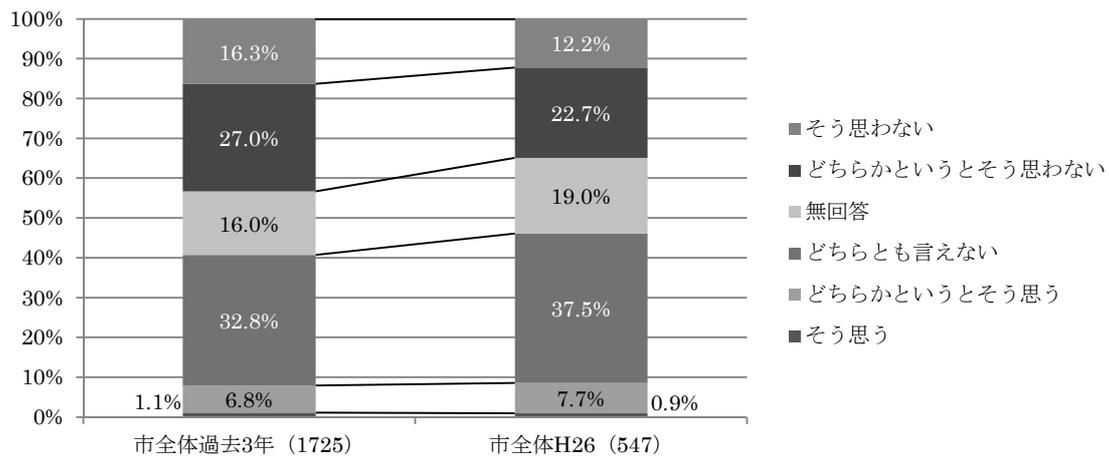
子ども連れの家族や若者、ビジネス客など、新たな京都ファンが増えている。

（若年層男性）**上昇**



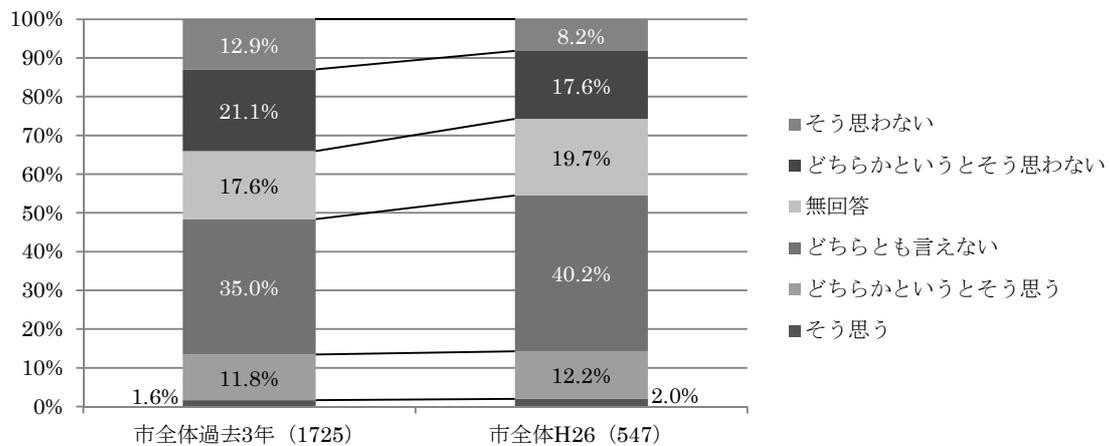
10 農林業（2問該当）

（1）京都の農林業が魅力を増し、後継者や新たな担い手が育っている。（市全体）**上昇**

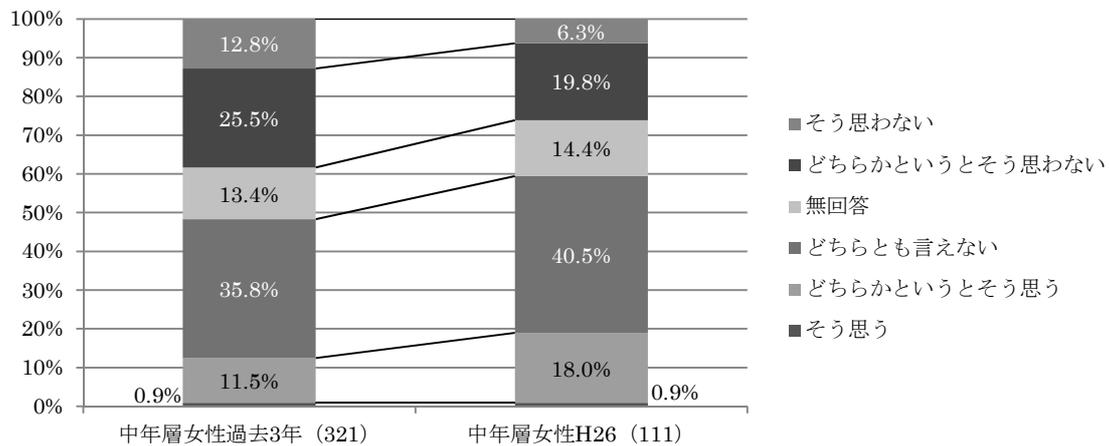


(2) 市民農園や森林を守る運動、学校の体験学習などにより、京都の農林業が身近になってきている。(市全体・中年層女性) **上昇**

・市全体

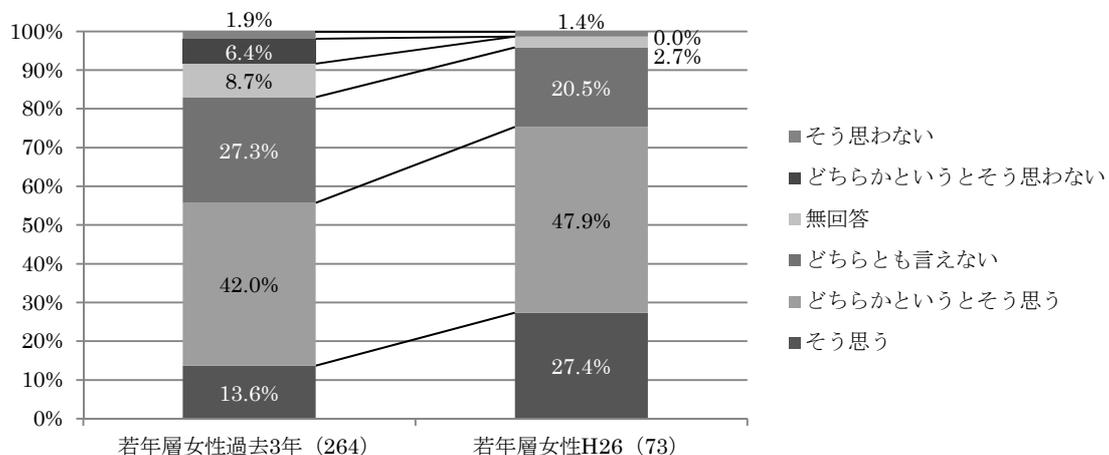


・中年層女性

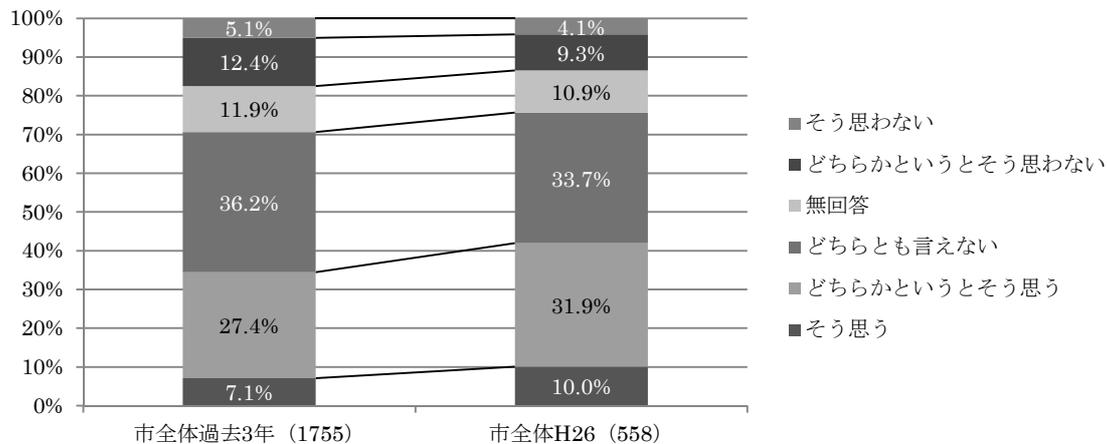


1 1 大学 (2問該当)

(1) 京都では、世界から留学生や研究者が集まり、国際社会で活躍する人材が育っている。(若年層女性) **上昇**



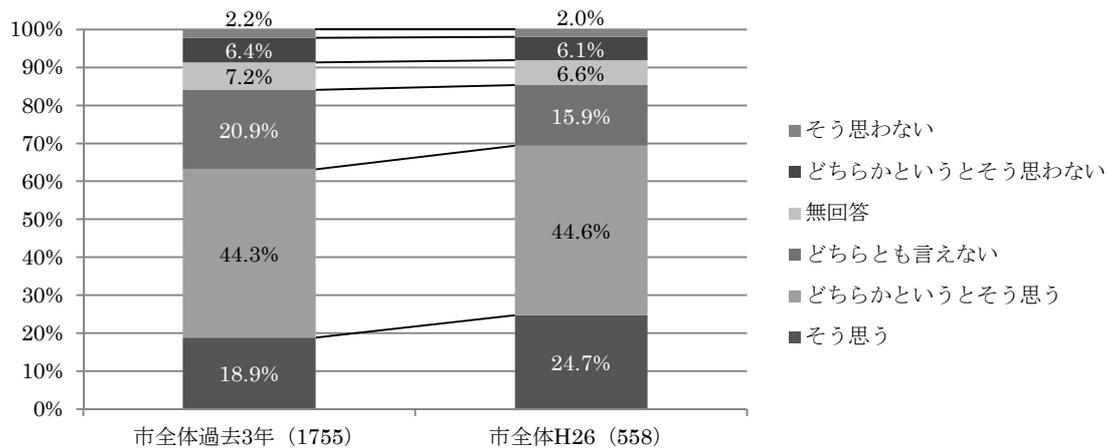
(2) 学生は、京都において社会で活躍する力を養い、そのパワーで京都のまちを活性化している。(市全体) **上昇**



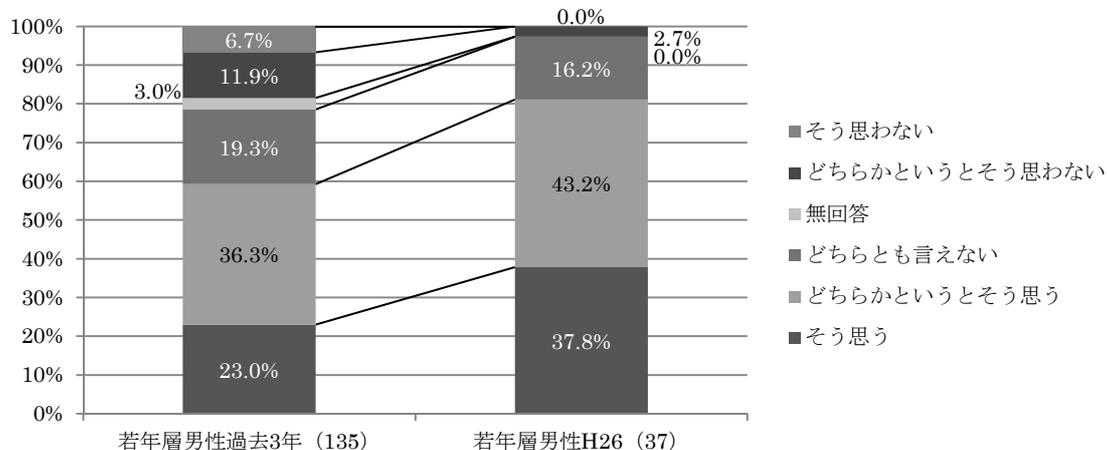
1 2 国際化 (2問該当)

(1) 京都には、世界から観光、留学、ビジネス等を目的として訪れるひとびとを引き寄せる魅力と、受入環境がある。(市全体・若年層男性) **上昇**

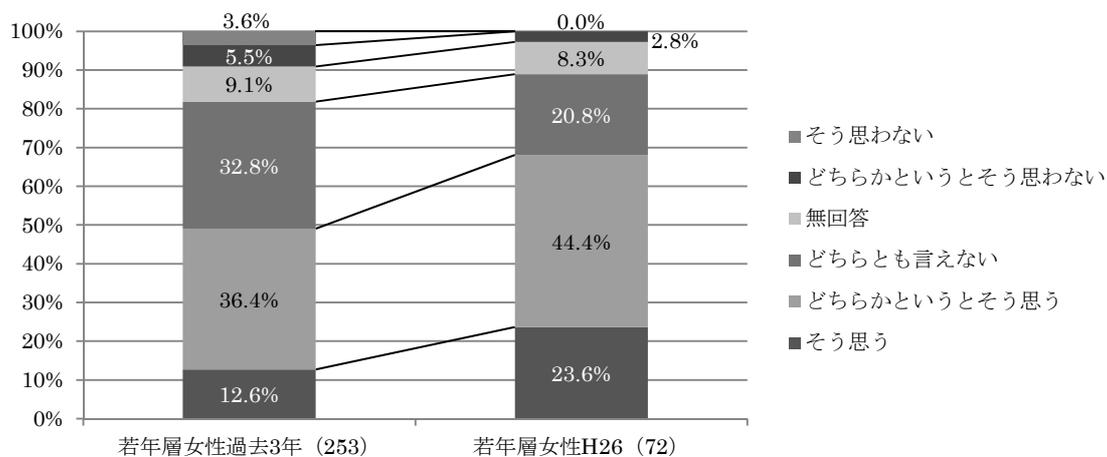
・市全体



・若年層男性



(2) 京都は、文化資産の継承、環境にやさしい取組などを通して、平和都市として国際社会に貢献している。(若年層女性) **上昇**

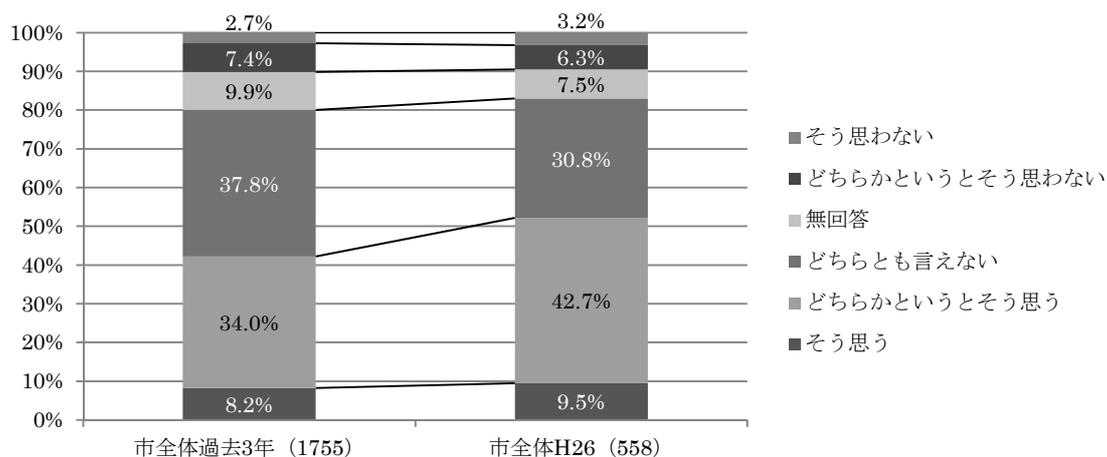


1.7 保健衛生・医療（1問該当）

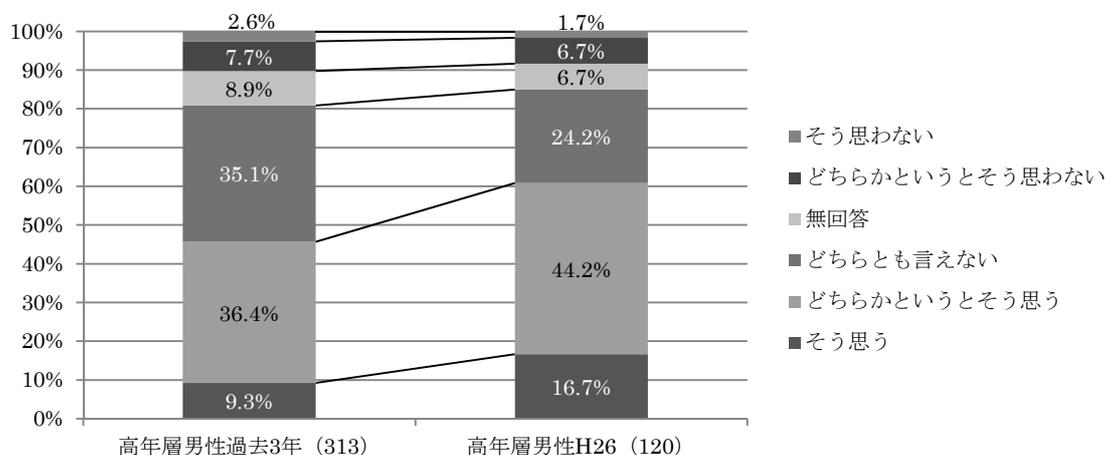
感染症や食中毒等の健康危機に対し、安全と安心が確保されている。

(市全体・高年層男性) **上昇**

・市全体



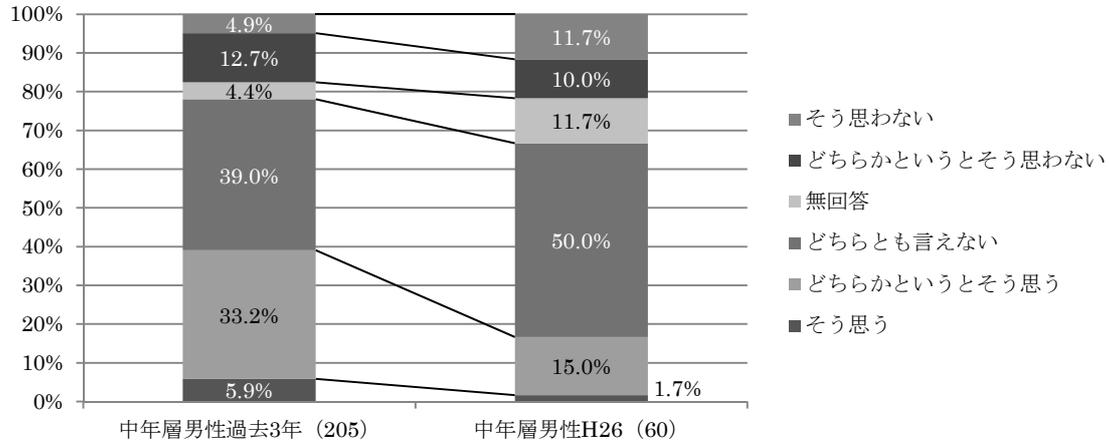
・高年層男性



18 学校教育（1問該当）

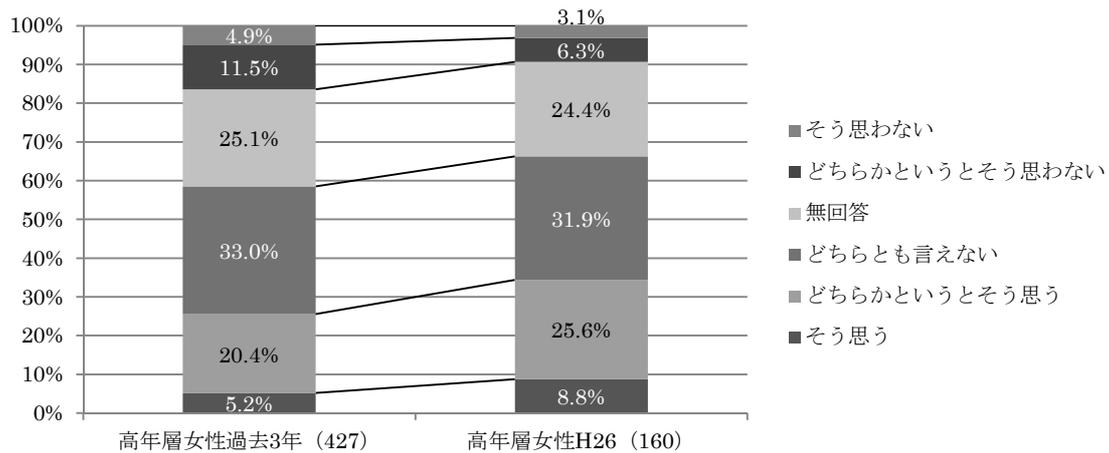
子どもたちが参加できる、さまざまな学びやスポーツ、体験活動の機会がある。

（中年層男性） **下降**



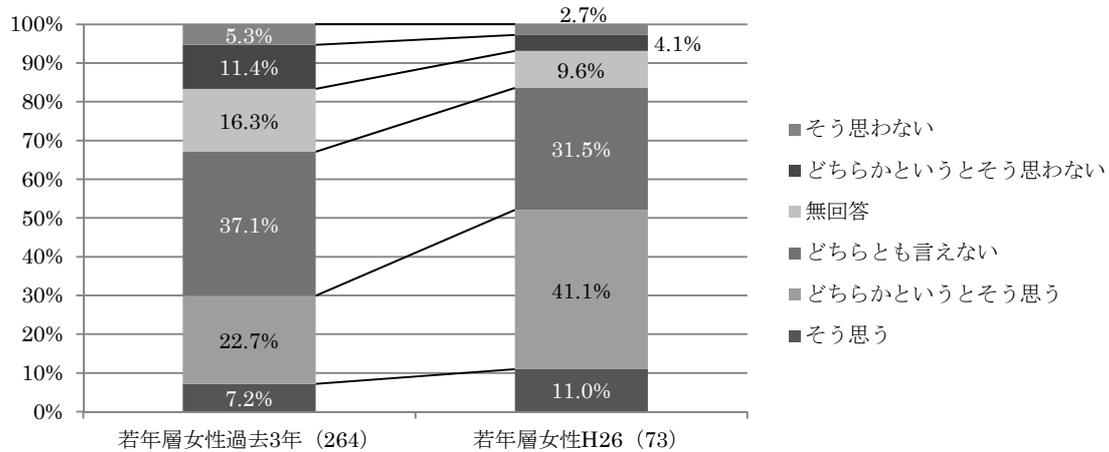
19 生涯学習（1問該当）

生涯にわたって自ら学習したことが、仕事や社会活動に役立っている。（高年層女性） **上昇**



2.4 住宅（1問該当）

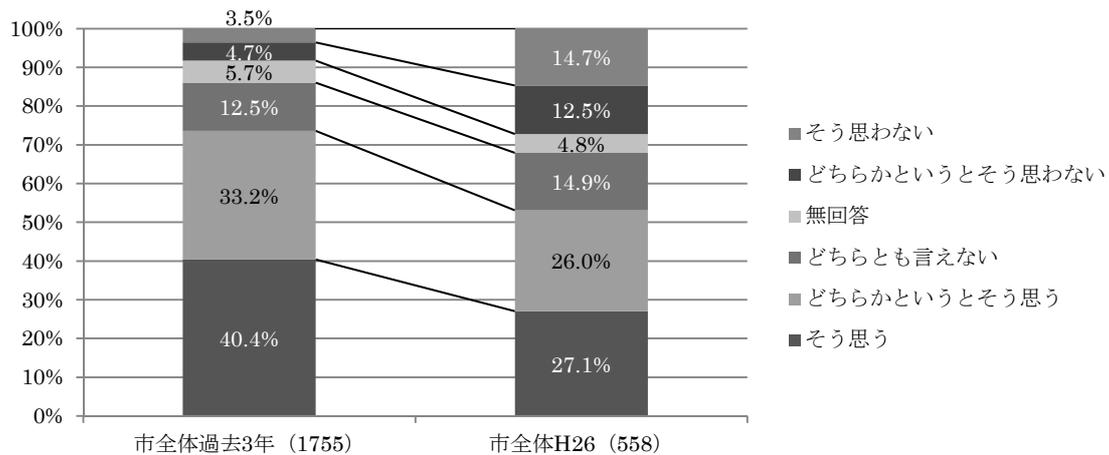
長く大切に使える住宅が増えている。（若年層女性） **上昇**



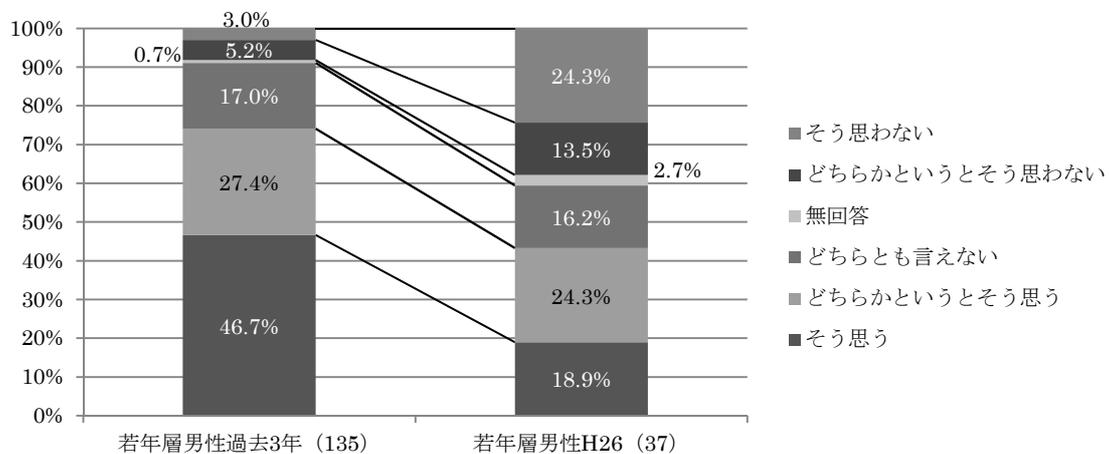
2.7 暮らしの水（2問該当）

(1) 大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。（市全体・若年層男性・若年層女性・中年層男性・中年層女性・高年層男性・高年層女性） **下降**

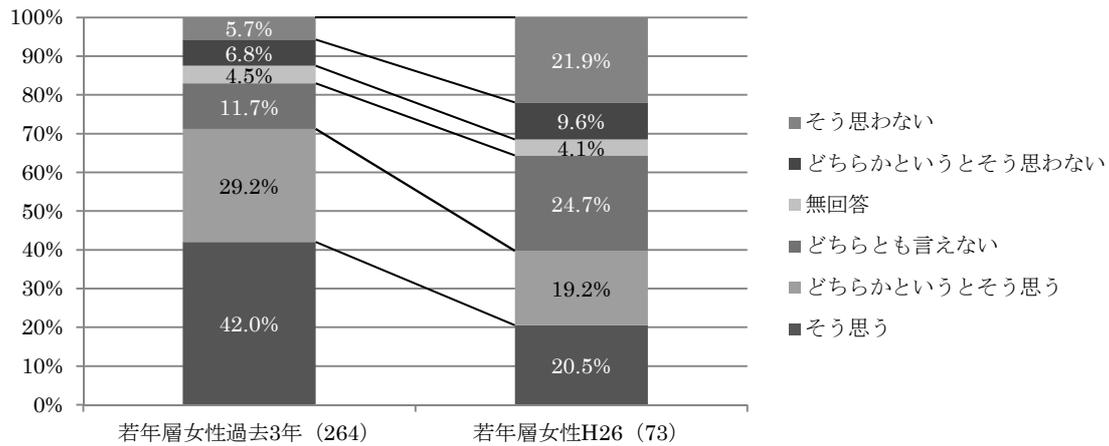
・市全体



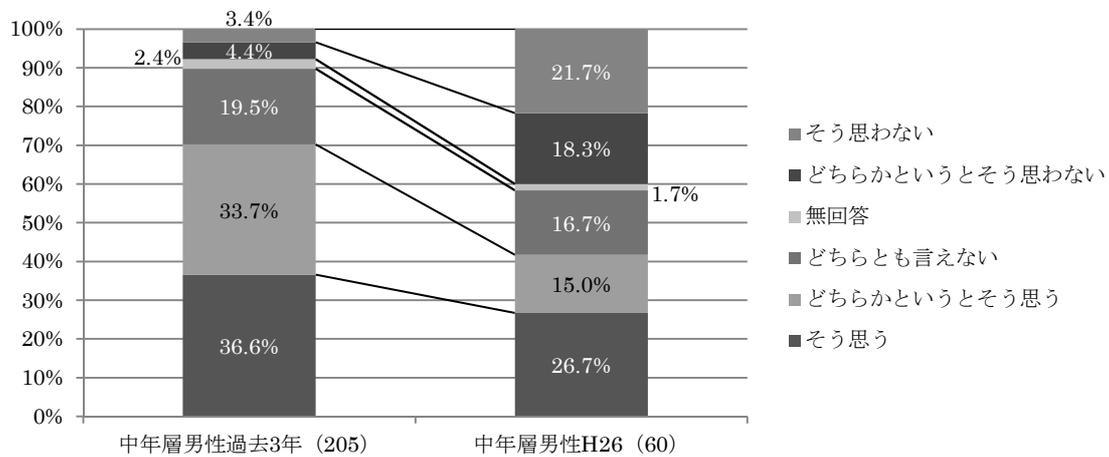
・若年層男性



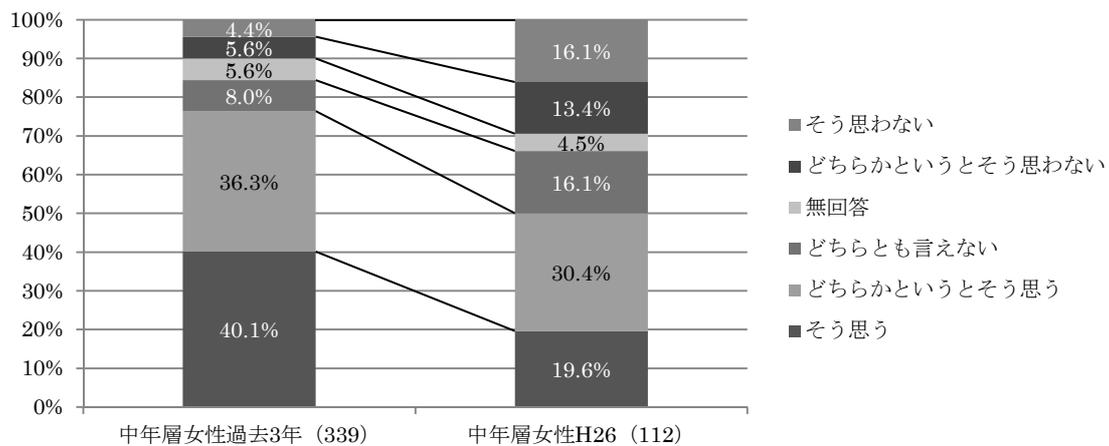
・若年層女性



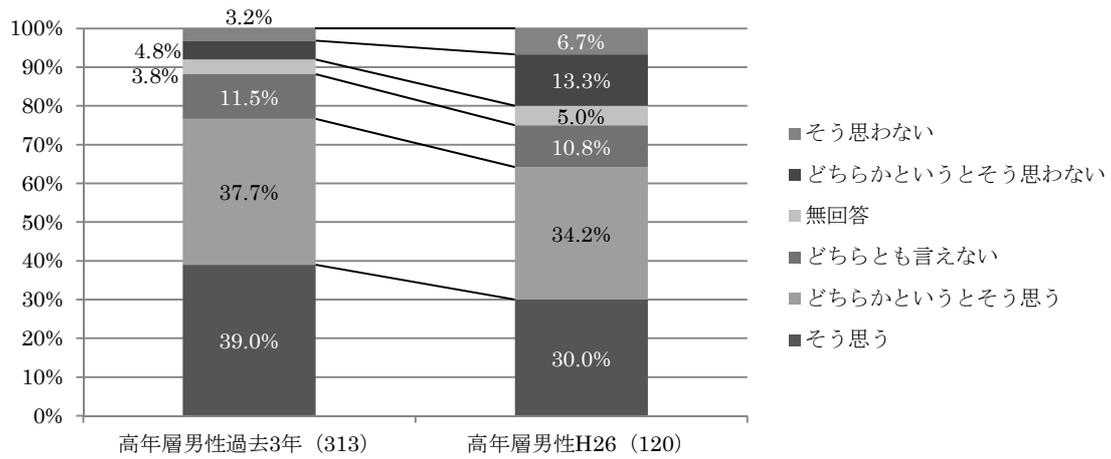
・中年層男性



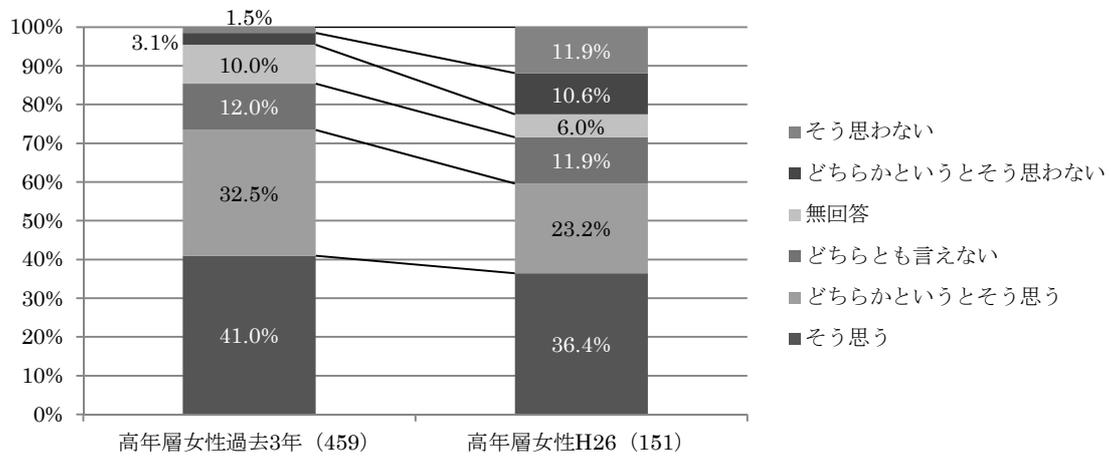
・中年層女性



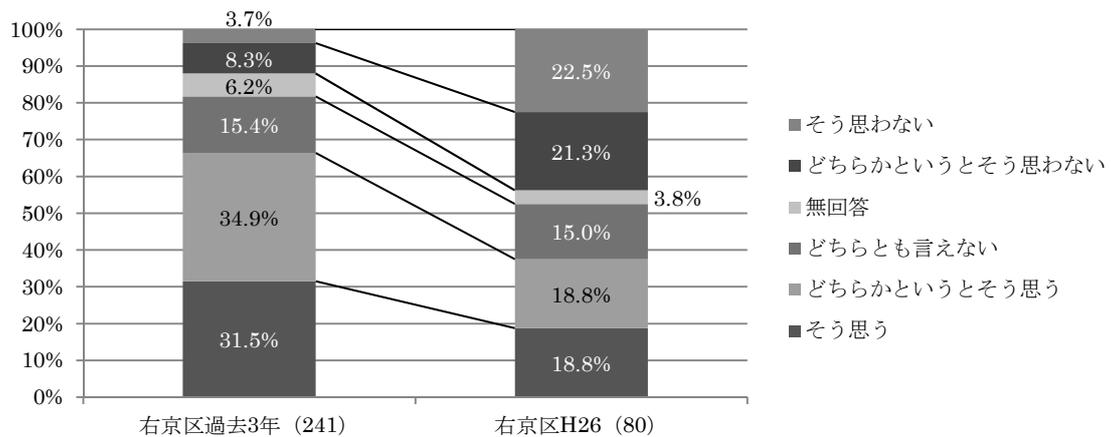
・高年層男性



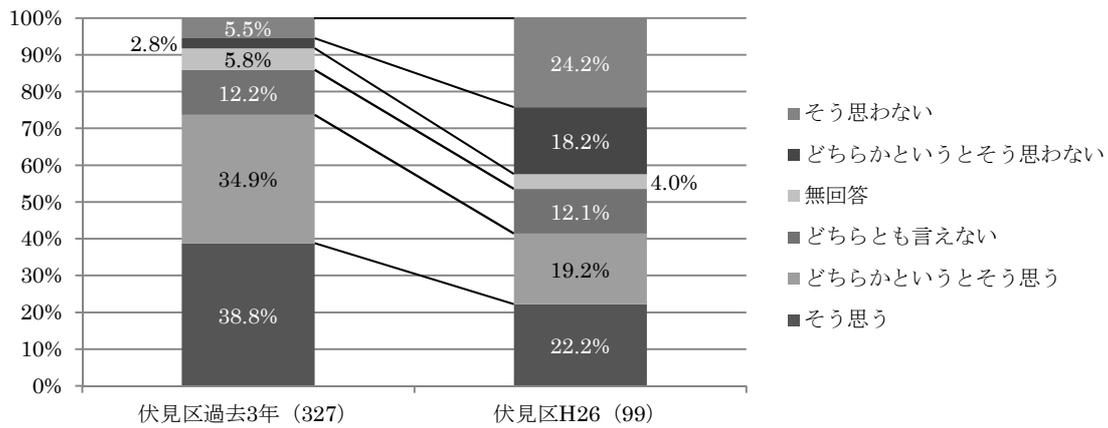
・高年層女性



・(参考) 右京区

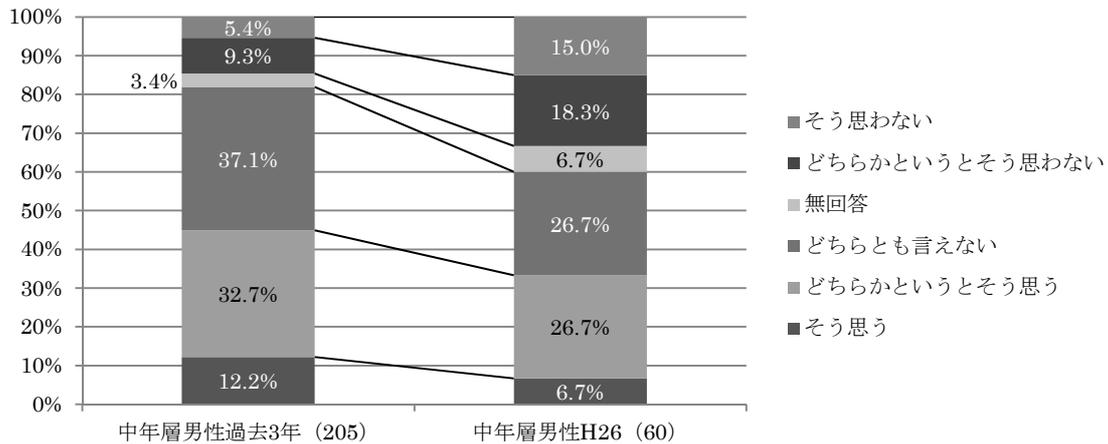


・(参考) 伏見区



(2) 水や水辺環境が大切にされるなど、水と共に生きる意識が高まっている。

(中年層男性) 下降



2 政策重要度と生活実感における相関について

27の政策分野における世代別・性別の政策重要度と生活実感との相関関係から、現在の政策及びその効果に対して市民がどのように感じているかを推測することができる。政策重要度と生活実感の分析結果は今後の政策の進め方を検討する参考となる。

政策重要度と生活実感における相関を分かりやすく表示するため、横軸に政策重要度、縦軸に生活実感を設定し、「重要である」と「そう思う」をプラス2点、「どちらかというとき重要である」と「どちらかというときそう思う」をプラス1点、「どちらとも言えない」を0点、「どちらかというとき重要ではない」と「どちらかというときそう思わない」をマイナス1点、「重要ではない」と「そう思わない」をマイナス2点と換算し、各回答数を掛け合わせたものを総回答数で割ることによって平均値を得た。その値を図にあてはめ、政策重要度と生活実感の相関を示した。

それぞれの相関の見方については、概ね以下のように考えられる。

●政策重要度も生活実感も高い

当該分野における政策を市民が重要と認識している。生活実感の高さについては、

- ・ 当該分野における政策の効果が高いと市民が認識している。
- ・ 政策の効果にかかわらず市民の生活場面（その時期に社会で起こった出来事など）における実感が高い。

等が原因と考えられる。

●政策重要度は低いが生実感が高い

政策重要度の低さは、

- ・ 政策の効果が市民生活に浸透していることにより当該分野における政策の重要性を市民がことさらに認識する必要がない。
- ・ 現在実行されている政策のPR不足等の理由によりそもそも市民が知らない。
- ・ 市民が当該分野の政策の優先順位が低いものと受け止めている。

等の理由により、市民が重要であると認識していないということが原因と考えられる。

一方、生活実感の高さは、

- ・ 当該分野における政策の効果が高いと市民が認識している。
- ・ 政策の効果にかかわらず生活場面における実感が高い。

等が原因と考えられる。

●政策重要度は高いが生実感は低い

当該分野における政策を市民が重要と認識している。生活実感の低さについては、

- ・ 当該分野における政策の効果が低いと市民が認識している。
- ・ 政策の効果にかかわらず生活場面における実感が低い。

等が原因と考えられる。

●政策重要度も生活実感も低い

政策重要度の低さは、

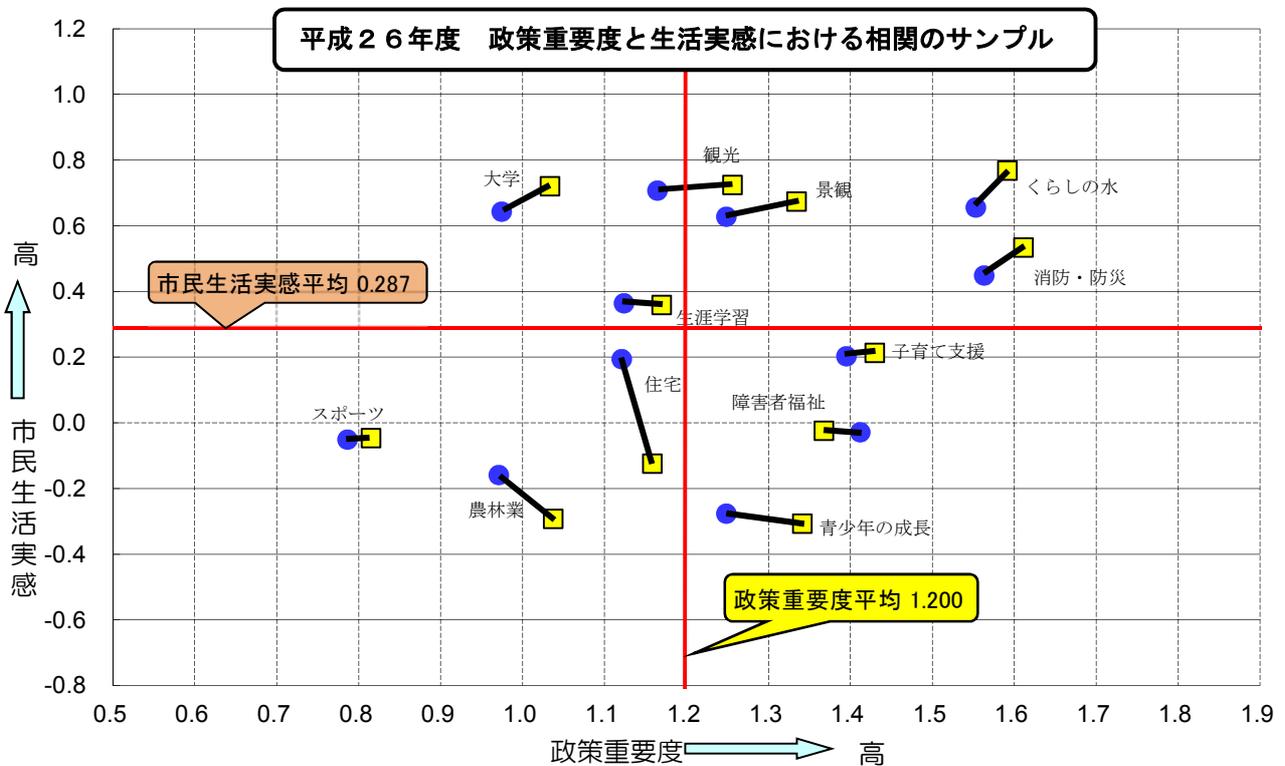
- ・ 政策の効果が市民生活に浸透していることにより当該分野における政策の重要性を市民がことさらに認識する必要がない。
- ・ 現在実行されている政策のPR不足等の理由によりそもそも市民が知らない。
- ・ 市民が当該分野の政策の優先順位が低いものと受け止めている。

等の理由により、市民が重要であると認識していないということが原因と考えられる。

生活実感の低さは、

- ・ 当該分野における政策の効果が低いと市民が認識している。
- ・ 政策の効果にかかわらず生活場面における実感が低い。

等が原因と考えられる。



※ 上図は市全体における相関の昨年度からの推移を示したサンプルである。推移を追うため、□を昨年度の値、●を今年度の値とし、同一の政策分野の動きを線をつないで表示している。次ページ以降、市全体及び世代別・性別の相関図を掲載する。

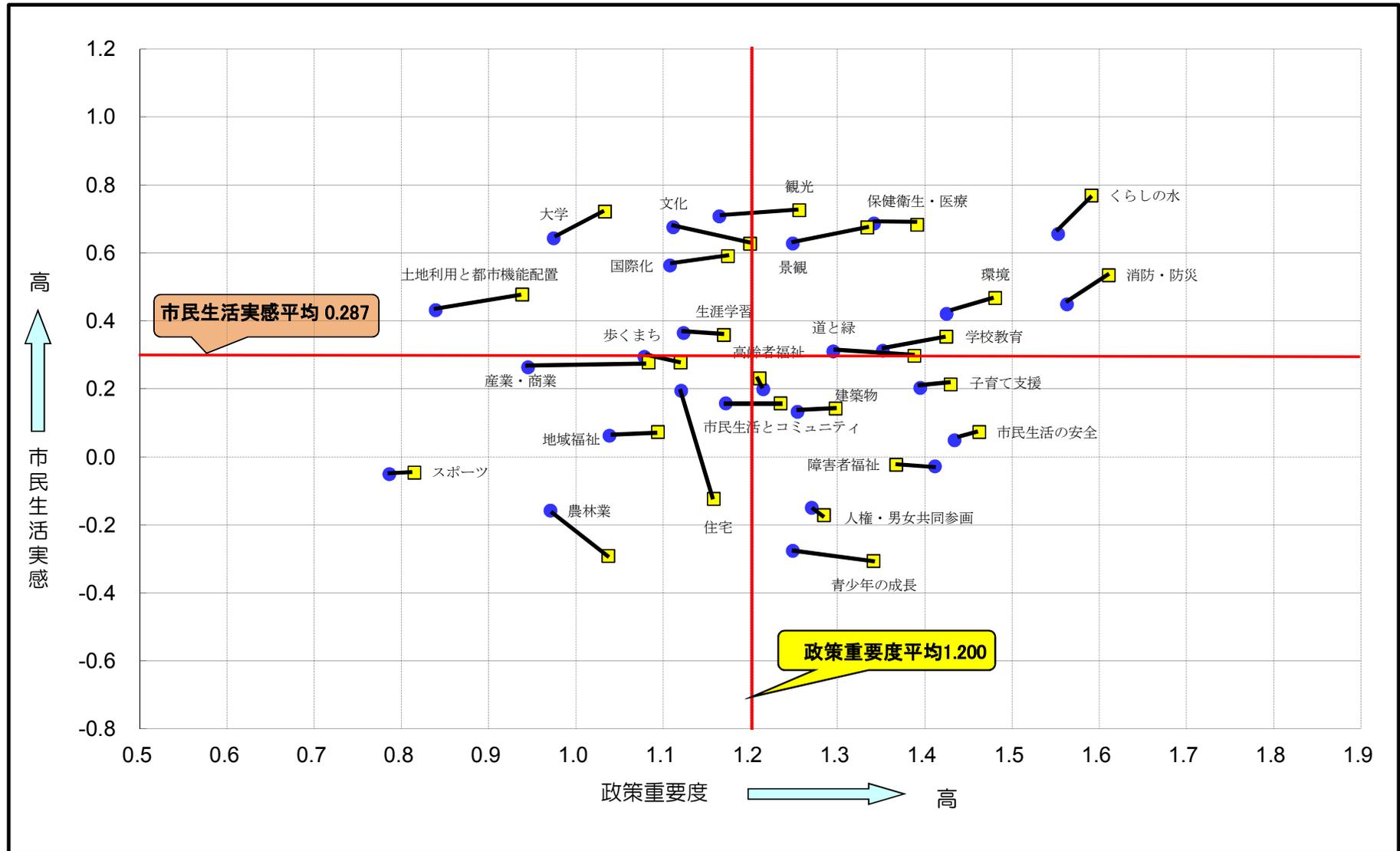
政策重要度と生活実感の関係 市全体のH25→H26変化

<資料8-1>

政策重要度：回答数÷有効回答数

生活実感：政策ごとの生活実感の平均値

□は25年度の位置を、●は26年度の位置をそれぞれ示し、直線をつなげた。



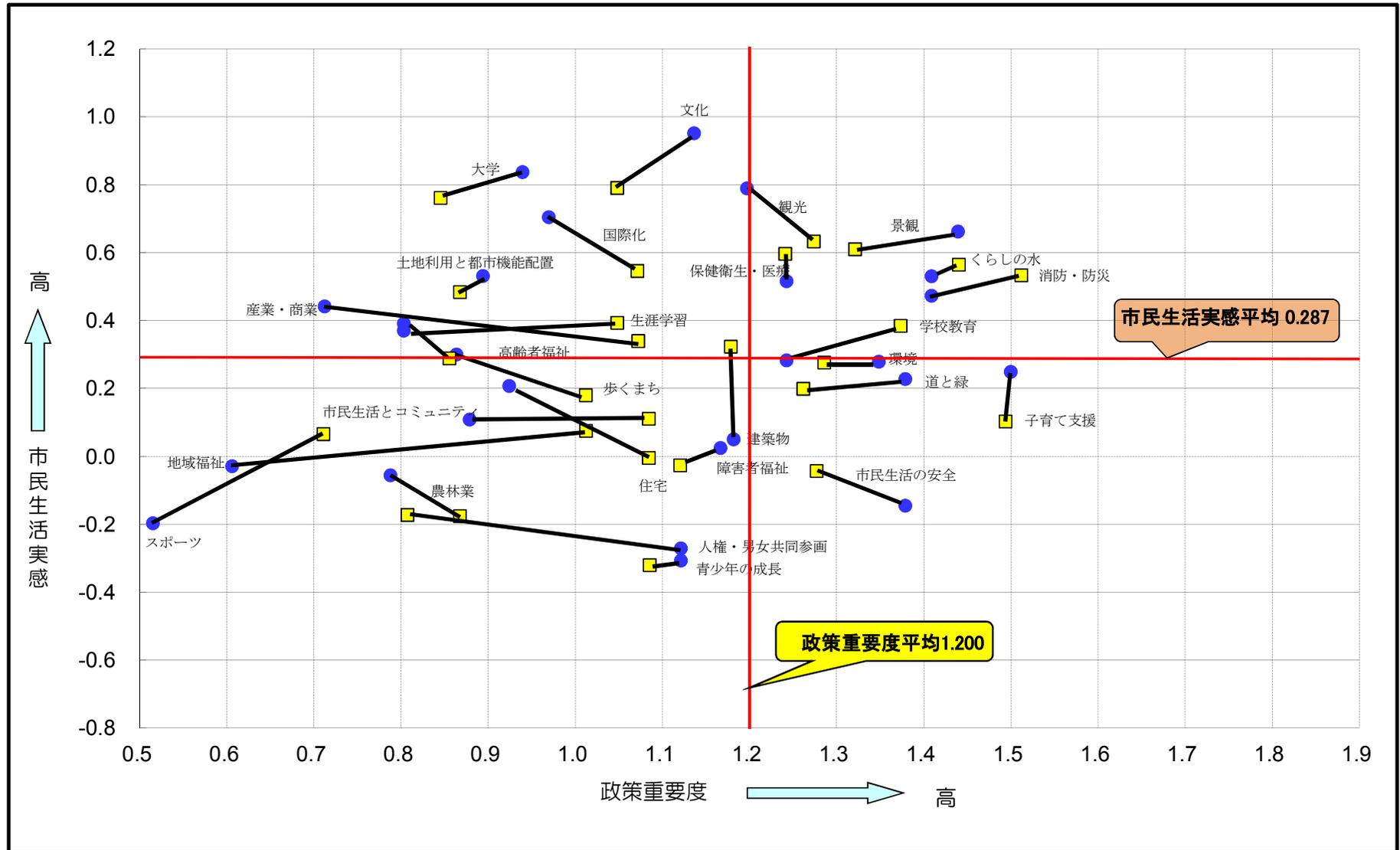
政策重要度と生活実感の関係 若年層男性のH25→H26変化

<資料8-2>

政策重要度：回答数÷有効回答数

生活実感：政策ごとの生活実感の平均値

□は25年度の位置を、●は26年度の位置をそれぞれ示し、直線をつなげた。



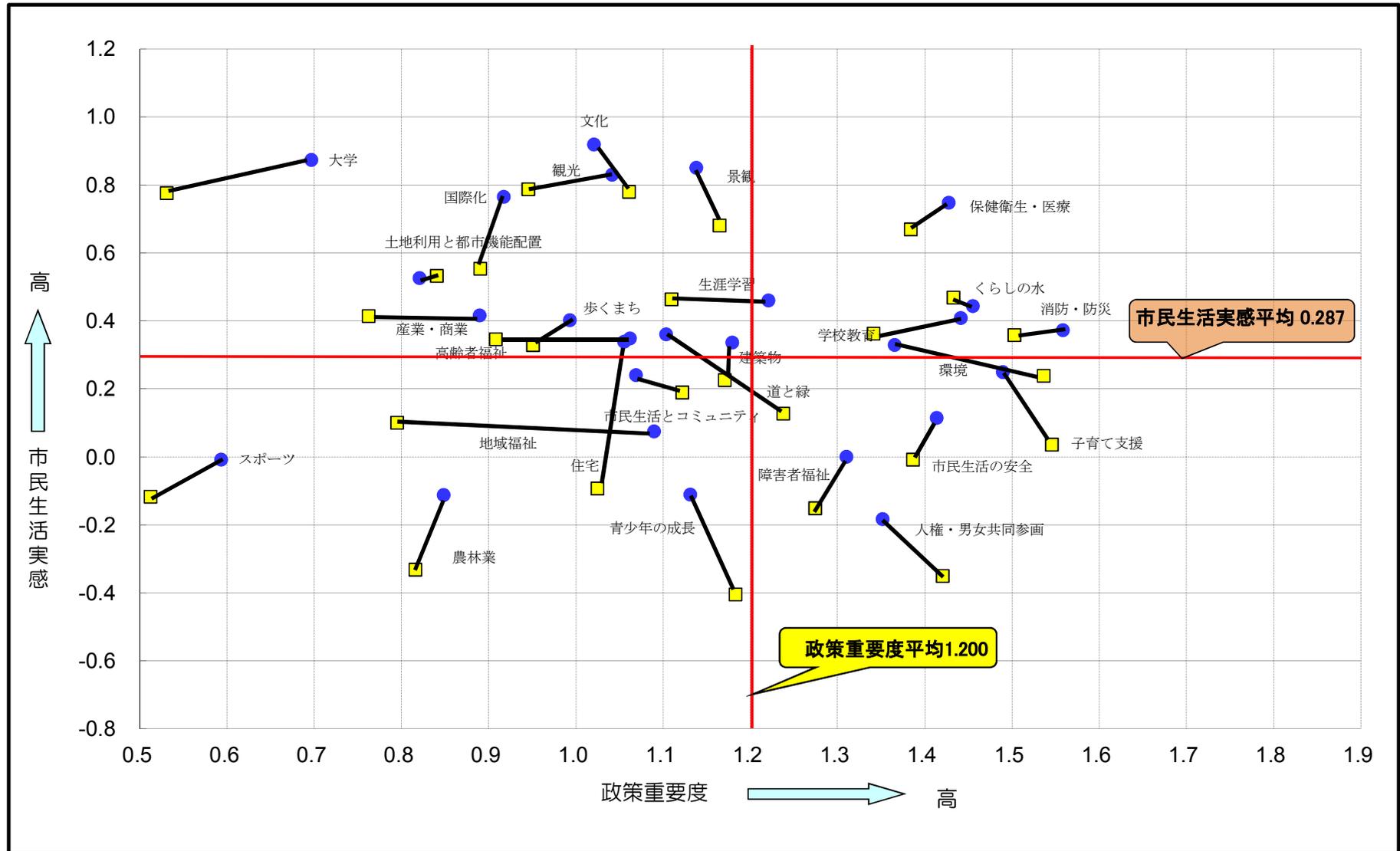
研究成果 政策重要度と生活実感の関係 若年層女性のH25→H26変化

<資料8-3>

政策重要度：回答数÷有効回答数

生活実感：政策ごとの生活実感の平均値

□は25年度の位置を、●は26年度の位置をそれぞれ示し、直線をつなげた。



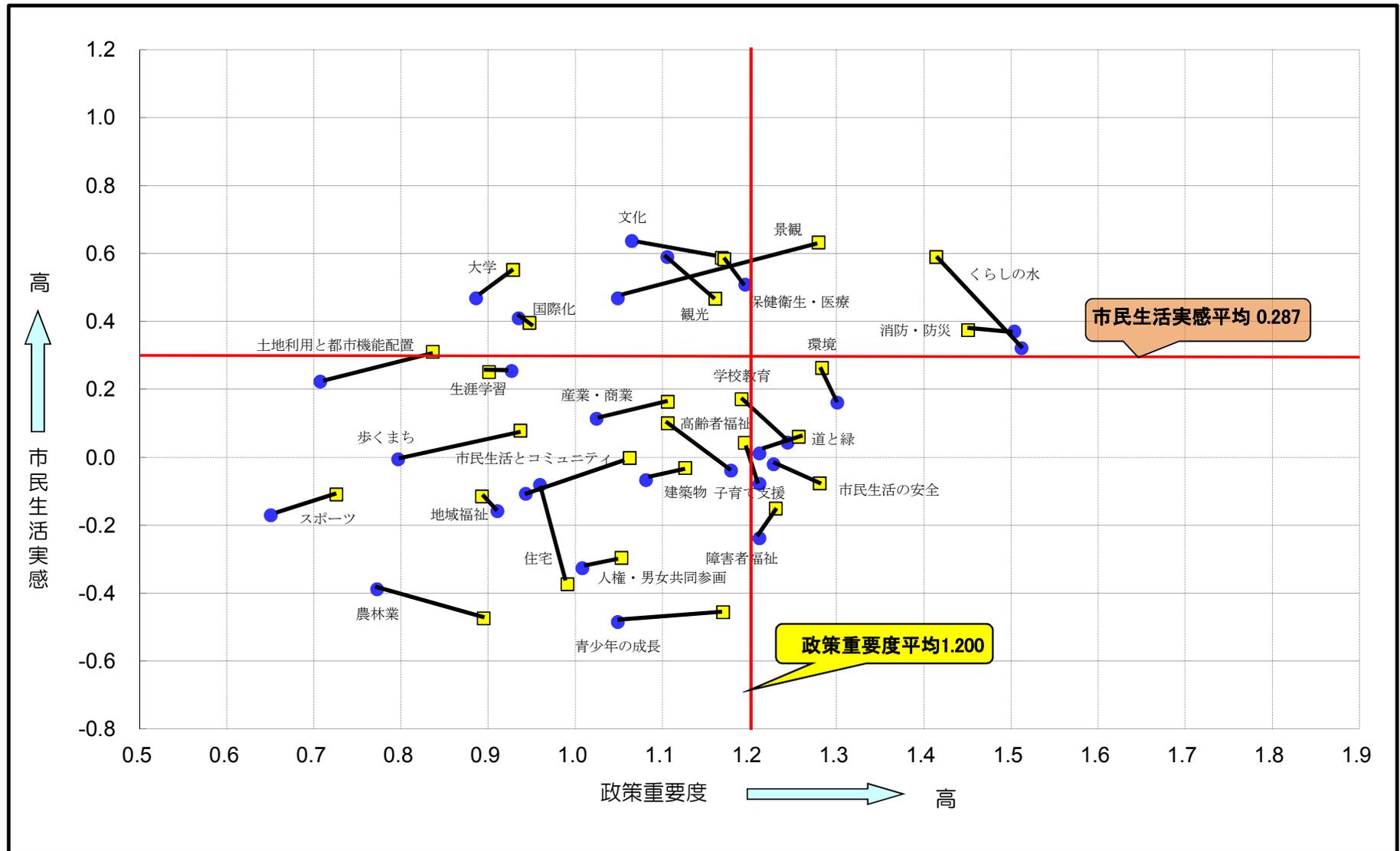
政策重要度と生活実感の関係 中年層男性のH25→H26変化

<資料8-4>

政策重要度：回答数÷有効回答数

生活実感：政策ごとの生活実感の平均値

□は25年度の位置を、●は26年度の位置をそれぞれ示し、直線をつなげた。



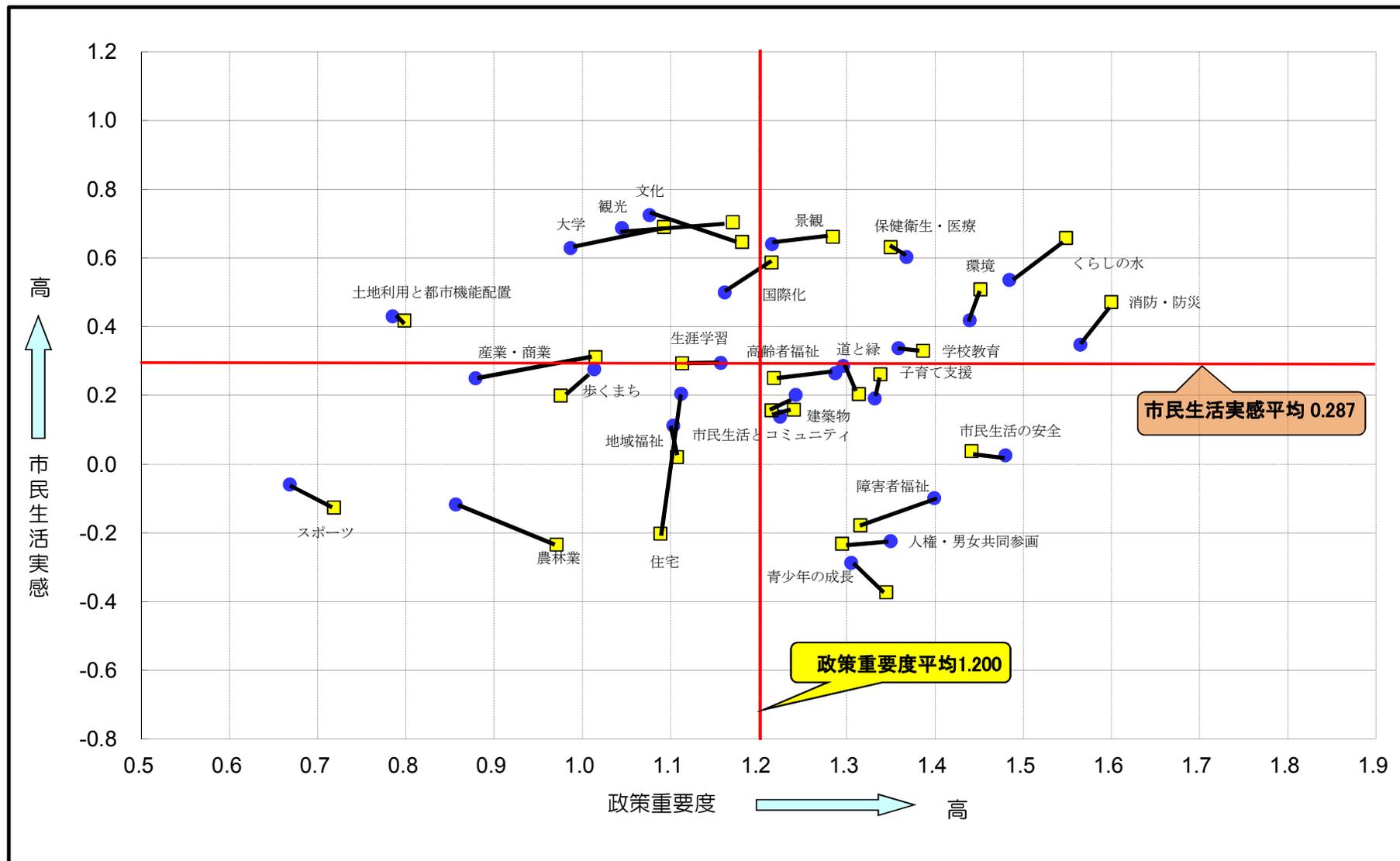
政策重要度と生活実感の関係 中年層女性のH25→H26変化

<資料8-5>

政策重要度：回答数÷有効回答数

生活実感：政策ごとの生活実感の平均値

□は25年度の位置を、●は26年度の位置をそれぞれ示し、直線をつなげた。



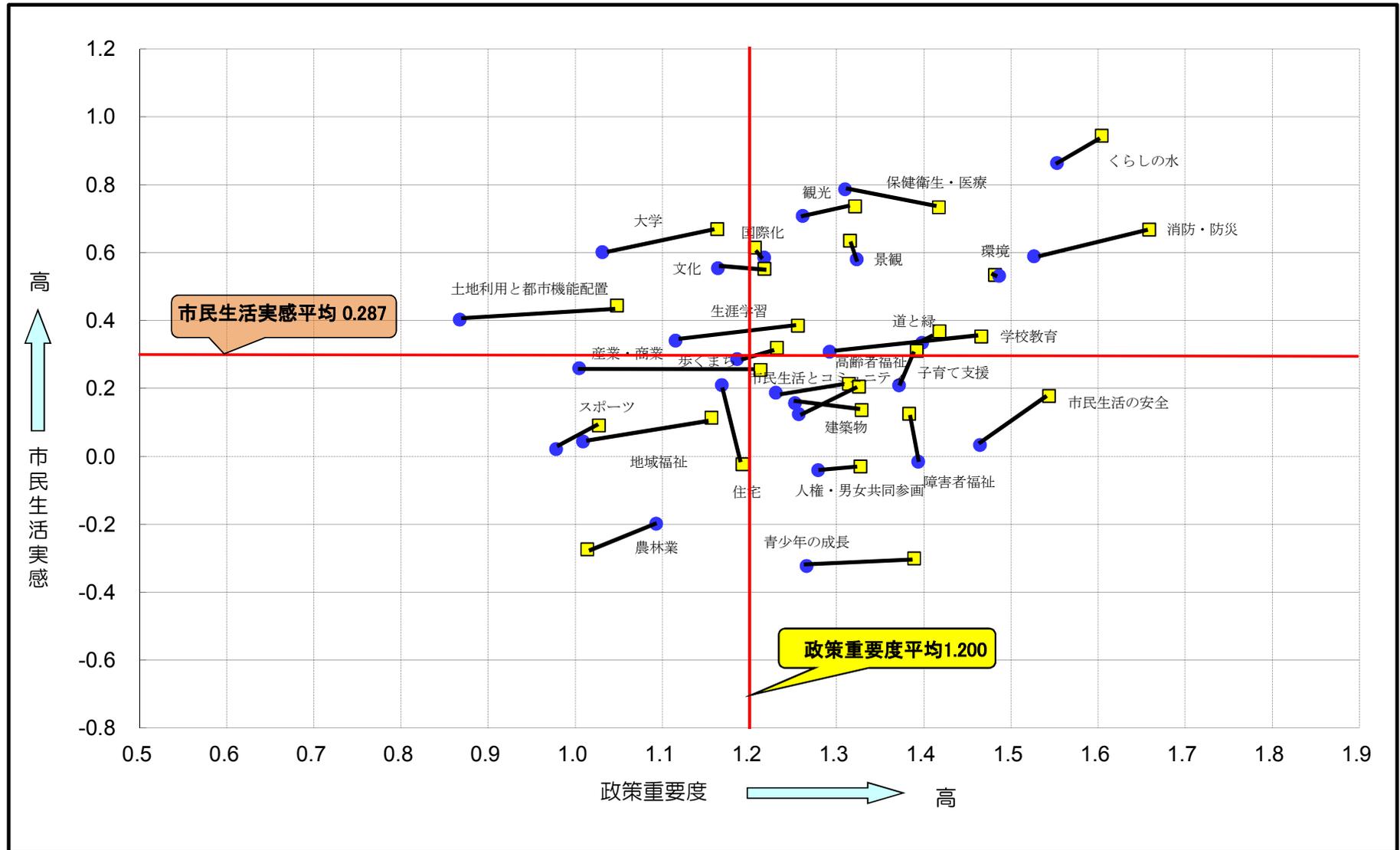
政策重要度と生活実感の関係 高年層男性のH25→H26変化

<資料8-6>

政策重要度：回答数÷有効回答数

生活実感：政策ごとの生活実感の平均値

□は25年度の位置を、●は26年度の位置をそれぞれ示し、直線をつなげた。



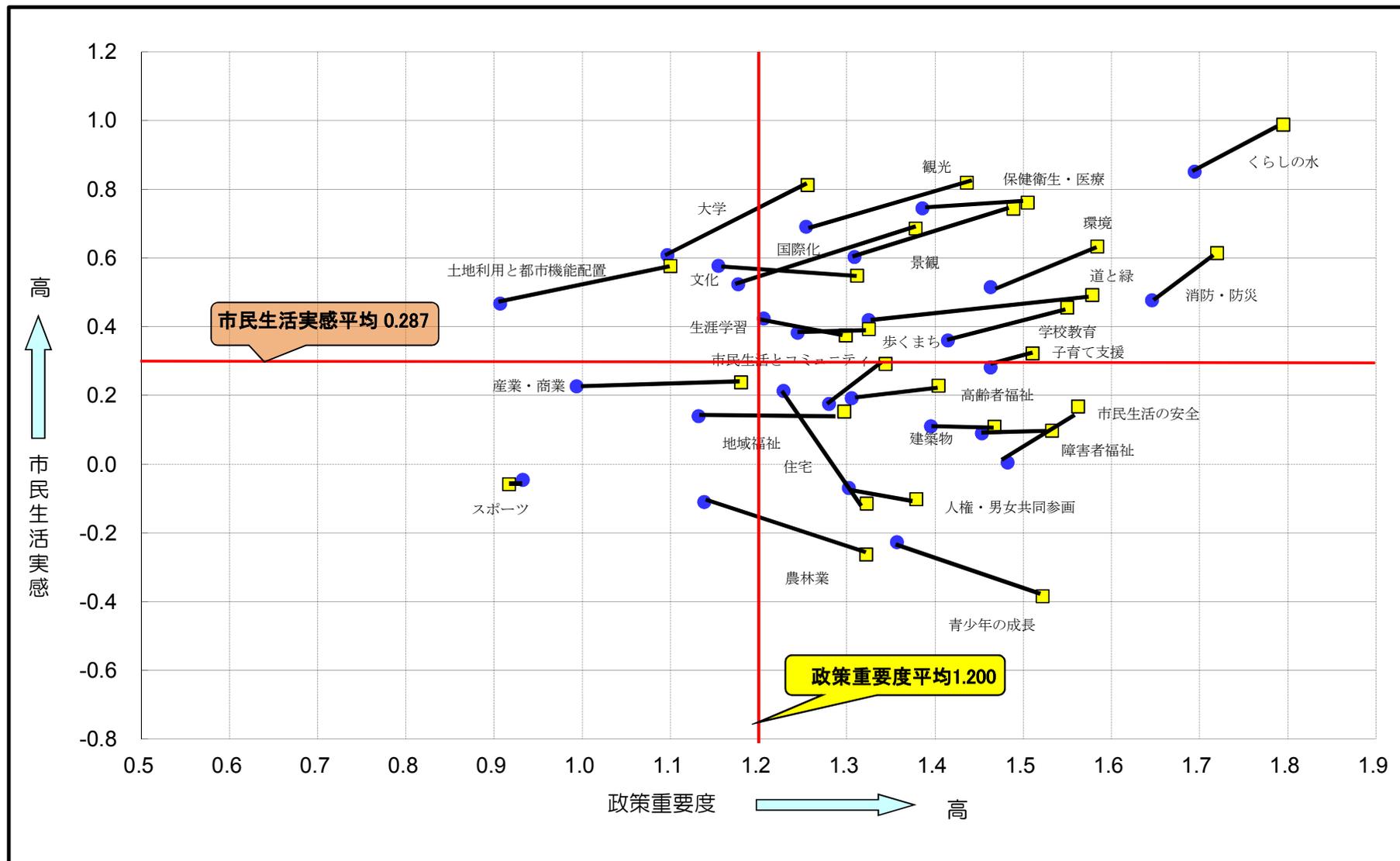
政策重要度と生活実感の関係 高年層女性のH25→H26変化

<資料8-7>

政策重要度：回答数÷有効回答数

生活実感：政策ごとの生活実感の平均値

□は25年度の位置を、●は26年度の位置をそれぞれ示し、直線をつなげた。



3 生活実感と幸福実感における相関について

生活実感に関する130の設問と幸福実感の相関関係との分析を行い、世代別・性別ごとの相関係数（スピアマンの順位相関係数※）の上位5位まで取り上げた。また、昨年度と同じく「t検定」※を行い、有意水準1%に該当するもの（変化の幅が誤差の範囲を超えて顕著な変化を示しているもの）でもあるかどうかを検討した結果、すべて有意水準1%に該当することを確認した。

※スピアマンの順位相関係数とt検定

スピアマンの順位相関係数とは二つの変数間の相関を調べる手法であり、順序尺度に用いられる。正の相関係数が大きい場合、生活実感と幸福実感の相関が強く、生活実感が高いほど幸福実感も高いか、逆に生活実感が低いほど幸福実感も低いことが多いといえ、今後、生活実感を高めるような取組を推進することで幸福実感も上昇する可能性がある。

t検定とは2組のサンプルの平均値に差があるかどうかを調べる手法であり、本分析においては有意水準1%に該当したものを「変化の幅が誤差の範囲を超えて著しく変化したもの」として取り上げている。

なお、相関係数は-1～+1の値を取り、+1に近いほど正の相関が強く、-1に近いほど負の相関が強いことを意味する。相関係数が+1の場合は正の完全相関、-1の場合は負の完全相関、0の場合は無相関となる。相関関係の目安としては以下のように示されることが多い。

項目	値
強い正の相関がある	+0.7～+1.0
中程度の正の相関がある	+0.4～+0.7
弱い正の相関がある	+0.2～+0.4
ほとんど相関がない	-0.2～+0.2
弱い負の相関がある	-0.2～-0.4
中程度の負の相関がある	-0.4～-0.7
強い負の相関がある	-0.7～-1.0

分析結果からは、市全体では相関係数が最も大きい設問でも0.3であり、生活実感と幸福実感の相関の程度は弱いものが多かった。世代別・性別に見ると、若年層男性で相関の程度が最も強い設問が見られ、また政策分野「景観」「歩くまち」における相関は他の世代別・性別の区分では見られないものであった。中年層は男女とも相関係数が比較的小さかったことと、政策分野「産業・商業」において2設問ずつ相関が見られたことが特徴的であった。高年層は男女とも政策分野「くらしの水」で、中程度の相関がある設問が見られた。

次ページ以降には市全体と各世代別・性別の、いずれも相関係数が大きいものから上位五つの設問を抜き出し、生活実感の肯定的割合と合わせて一覧を示す。

生活実感と幸福実感において相関を示した設問 一覧表

【市全体】

分野	設問文	生活実感の肯定的割合	相関係数
市民生活とコミュニティ	地域の一員として安心して暮らせるまちになっている。	55.0%	0.336
道と緑	道路や公園などがバランスよく整備され、魅力ある都市空間が増えている。	46.1%	0.332
文化	文化・芸術活動によって、京都のまち全体が活気づいている。	52.3%	0.312
観光	京都は、市民にとってくらしやすい観光都市である。	58.0%	0.293
消防・防災	京都には文化財を守る意識が根付いており、文化財を火災などの災害から守る取組が進んでいる。	66.2%	0.292

【若年層男性】

分野	設問文	生活実感の肯定的割合	相関係数
景観	京都の暮らしや文化を伝えている京町家が継承されている。	69.0%	0.681
歩くまち	地下鉄、市バスは、市民生活に役立っている。	79.3%	0.654
歩くまち	駐輪場の整備や自転車の利用マナーの向上により、自転車と歩行者が共存できている。	34.5%	0.619
国際化	京都では、市民、民間レベルでのさまざまな国際交流が盛んである。	58.6%	0.588
観光	京都市民は、観光客を温かく迎えるなど、京都観光の振興に協力的である。	72.4%	0.562

【若年層女性】

分野	設問文	生活実感の肯定的割合	相関係数
市民生活の安全	事故や犯罪を防ぐための自治会や警察、京都市などの取組により、安全にさせるまちになっている。	46.6%	0.414
道と緑	道路や公園などがバランスよく整備され、魅力ある都市空間が増えている。	48.6%	0.405
子育て支援	必要ときに健康相談を受けたり、病院に行けたり、安心して子どもを生み育てることができる。	46.6%	0.404
文化	文化・芸術活動によって、京都のまち全体が活気づいている。	73.6%	0.381
観光	子ども連れの家族や若者、ビジネス客など、新たな京都ファンが増えている。	58.9%	0.378

【中年層男性】

分野	設問文	生活実感の肯定的割合	相関係数
文化	京都では、文化芸術にかかわる活動が盛んである。	77.8%	0.387
産業・商業	働くことを希望するひとがいきいきと働ける場を得る機会がある。	9.5%	0.386
道と緑	道路や公園などがバランスよく整備され、魅力ある都市空間が増えている。	39.7%	0.386
市民生活とコミュニティ	地域の一員として安心してさせるまちになっている。	52.4%	0.371
産業・商業	京都では、価値を高めるために工夫したものづくりが行われている。	52.4%	0.362

【中年層女性】

分野	設問文	生活実感の肯定的割合	相関係数
市民生活とコミュニティ	地域の一員として安心してさせるまちになっている。	60.4%	0.382
産業・商業	ソーシャルビジネス（社会的企業）が育ってきている。	13.5%	0.341
道と緑	道路や公園などがバランスよく整備され、魅力ある都市空間が増えている。	47.7%	0.327

消防・防災	京都には文化財を守る意識が根付いており、文化財を火災などの災害から守る取組が進んでいる。	57.7%	0.306
産業・商業	京都では、さまざまな企業や産業の活動が互いに刺激し合って発展している。	38.4%	0.302

【高年層男性】

分野	設問文	生活実感の肯定的割合	相関係数
土地利用と都市機能配置	身近な地域が魅力的になっている。	35.0%	0.496
くらしの水	京都の河川は水がきれいで、水辺に親しみやすい。	70.8%	0.472
消防・防災	身近なところで防火意識が高まり、出火防止の取組が進んでいる。	44.2%	0.421
道と緑	道路や公園などがバランスよく整備され、魅力ある都市空間が増えている。	44.3%	0.407
市民生活とコミュニティ	町内会、自治会など地域の組織の活動が盛んである。	41.7%	0.376

【高年層女性】

分野	設問文	生活実感の肯定的割合	相関係数
くらしの水	京都の上下水道は、安全で安心していつでも利用できる。	83.8%	0.401
くらしの水	京都の上下水道は、経営が安定しており、将来も安心して使い続けることができる。	70.6%	0.398
保健衛生・医療	安心して食べられる食品が手に入るなど、衛生的な生活環境が整っている。	59.6%	0.382
市民生活の安全	事故や犯罪を防ぐための自治会や警察、京都市などの取組により、安全にくらせるまちになっている。	41.7%	0.380
くらしの水	京都の河川は水がきれいで、水辺に親しみやすい。	71.9%	0.376

4 自由記述の分析について

自由記述の回答に対し、頻出する単語とそれに関連する単語をまとめた。自由記述は与えられた設問ではないため、回答者の潜在的なニーズを抽出することができ、今後実施する政策や事業等を検討するうえで参考となりうる。

自由回答など定性的なものを解析するためには定量的なデータに変換することが効果的であり、今年度も統計的分析手法の一つであるテキストマイニング法※を用いて、市全体と世代別・性別に分けて分析を行った。世代別・性別の区分ごとの自由記述の回答の中から頻出する単語を上位五つ抽出し、それぞれの単語の関連語を上位五つ抽出した。なお、関連語とは「名詞」「サ変名詞」に該当するものとした。

※ テキストマイニング

一般にアンケートの自由回答は回答者が主観的（定性的）に書かれる。多くの文章の中から何かを読み取るためには客観的（定量的）に把握する必要があり、そのための手法としてアナログな文字情報をデータ化することで分析処理が可能となる。この作業をテキストマイニングという。

分析結果から、市全体においては「生活」が最も多く、子供や自身が住む地域に関することなど身近な問題に関する意見が多いことがわかった。世代別・性別では若年層・中年層の男女とも「子供」「子ども」についての意見が全体的に多く、高年層では男女とも「生活」が最も多く見られた。

<市全体> 回答数 489

「生活」が最も多く、子供や地域に関することなどへの意見も多く見られた。

	頻出語1位 生活	頻出語2位 子供	頻出語3位 観光	頻出語4位 市民	頻出語5位 地域
関連語1位	保護	教育	都市	行政	活動
関連語2位	年金	学校	道路	アンケート	町内
関連語3位	市民	公園	交通	新聞	道路
関連語4位	仕事	環境	シーズン	生活	自治
関連語5位	税金	社会	整備	情報	住宅

<若年層男性> 回答数 31

「自転車」に対する意見が最も多く見られた。「お願い」も頻出語だったが、行政に対する事項を述べているものが多かった。

	頻出語1位 自転車	頻出語2位 観光	頻出語2位 お願い	頻出語4位 行政	頻出語4位 高齢
関連語1位	歩行	生活	機能	自治	バリアフリー
関連語2位	スピード	市民	安心	地中	子供
関連語3位	友人	偏見	都市	機能	出産
関連語4位	衝撃	障害	行政	景観	安心
関連語5位	歩き	市営	高齢	高齢	社会

<若年層女性> 回答数 73

「子供」「子ども」が最も多く見られたことが特徴的であった（扱いとしては別の単語として分析）。

	頻出語1位 子供	頻出語2位 子ども	頻出語3位 地域	頻出語4位 市民	頻出語5位 生活
関連語1位	公園	状況	参加	新聞	保護
関連語2位	医療	機会	活動	生活	地元
関連語3位	子育て	支援	機会	保護	市民
関連語4位	環境	状態	実感	年齢	男性
関連語5位	市民	安心	イベント	対応	道路

<中年層男性> 回答数 52

他の世代別・性別では見られない「企業」が頻出語であることが特徴的であった。

	頻出語1位 子供	頻出語2位 企業	頻出語3位 観光	頻出語3位 施策	頻出語5位 景観
関連語1位	勉強	学生	道路	先人	条例
関連語2位	スポーツ	年金	都市	協調	住宅
関連語3位	利用	社会	仕事	道筋	市内
関連語4位	社会	収入	通勤	全般	建築
関連語5位	教育	負担	ガタガタ	古都	マンション

<中年層女性> 回答数 108

「観光」についての意見が最も多く見られたことが特徴的であった。

	頻出語1位 観光	頻出語2位 自転車	頻出語3位 生活	頻出語4位 子供	頻出語5位 道路
関連語1位	整備	歩行	保護	公園	整備
関連語2位	交通	道路	市民	教育	地域
関連語3位	バス	通行	税金	学校	観光
関連語4位	都市	携帯	教育	観光	公園
関連語5位	市バス	ポイ捨て	安心	地域	自転車

<高年層男性> 回答数 102

「生活」が最も多かったこと以外では「市民」や「地域」に関する意見も多いことが特徴的であった。

	頻出語1位 生活	頻出語2位 市民	頻出語3位 地域	頻出語4位 観光	頻出語5位 行政
関連語1位	年金	職員	自治	外国	市民
関連語2位	行政	行政	活動	都市	お世話
関連語3位	歴史	仕事	学校	市長	期待
関連語4位	保護	努力	住民	文化	自治
関連語5位	商業	情報	町内	条件	努力

<高年層女性> 回答数 123

「生活」と「高齢」という単語が多いことが特徴的であった。

	頻出語1位 生活	頻出語2位 高齢	頻出語3位 市民	頻出語4位 観光	頻出語5位 子供
関連語1位	年金	障害	市政	都市	学校
関連語2位	保護	福祉	自分	道路	テレビ
関連語3位	福祉	住宅	音楽	バス	教育
関連語4位	相談	安心	期待	ゴミ	人達
関連語5位	安心	交通	情報	交通	交通

生活実感調査 設問一覧 (27政策分野130問)

「そう思う」「どちらかというと思う」「どちらとも言えない」「どちらかというと思う」「そう思わない」の5段階で回答

分野	番号	設問文
1 環境	1	京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかけがえのないものと実感している。
	2	「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれている。
	3	省エネや省資源に取り組むひとや、徒歩、自転車、公共交通機関を利用するひとが増えている。
	4	太陽光発電や使用済み天ぷら油の燃料化など、環境にやさしい技術やエネルギーの活用が進んでいる。
	5	京都では、環境にやさしい行動を当たり前のこととして実践するひとや事業者が増えている。
	6	マイバッグやリサイクル製品など、ごみを出さないようなくらしと事業活動が広がっている。
	7	ごみを分別して出せる拠点が身近にあり、ごみのリサイクルが進んでいる。
2 人権・男女 共同参画	1	くらしのなかで互いの人権を尊重し合う習慣と行動が広がっている。
	2	いきいきと活動して自分の能力を発揮する場所や自分に合った働き方を見つける機会がある。
	3	女性も男性も、仕事と生活(家庭や地域活動など)をバランスよく充実できる社会になってきている。
	4	女性に対する暴力や性的いやがらせが根絶された社会になってきている。
3 青少年の 成長と参加	1	青少年が社会体験を通して「生きる力」を伸ばせている。
	2	青少年が自分の生き方や将来像を思い描けている。
	3	青少年が社会の幅広い分野にかかわり、意見や活力が生かされている。
	4	青少年がニート、不登校などの課題に直面したときに信頼して相談できるところがあり、支援がされている。
	5	青少年の成長を支援する社会環境と、青少年を受け入れる居場所がある。
4 市民生活 とコミュニ ティ	1	地域の一員として安心してらせるまちになっている。
	2	町内会・自治会など地域の組織の活動が盛んである。
	3	地域のひとが、環境や子育て、青少年の育成などの地域の課題に、自分たちで取り組んでいる。
	4	多様なNPOやボランティア組織と町内会・自治会などの地域の組織が協力して活動している。
	5	町内会、自治会などの地域の組織の主体的な活動と、それに対する行政の支援とがうまくかみ合っている。
5 市民生活 の安全	1	犯罪や事故など万が一のことがあっても、お互いに助け合えるまちである。
	2	事故や犯罪を防ぐための自治会や警察、京都市などの取組により、安全にくらせるまちになっている。
	3	悪質商法などによる消費者被害を防止し、被害を救済するしくみが整っている。
	4	消費生活に関する情報や知識を備えた自立した消費者が増えている。
6 文化	1	京都では、文化芸術にかかわる活動が盛んである。
	2	市民の生活に文化芸術がとけ込んでいる。
	3	文化・芸術活動によって、京都のまち全体が活気づいている。
	4	文化財が社会全体で大切にされ、地域の活性化にもつながっている。
7 スポーツ	1	気軽に体を動かしたり、スポーツやレクリエーションを楽しんだりする機会がある。
	2	プロスポーツやトップレベルのスポーツに身近に触れる機会がある。
	3	スポーツイベントや運動会、レクリエーションなどの活動を、スタッフやボランティアとして支えるひとが増えている。
8 産業・商業	1	京都では、さまざまな企業や産業の活動が互いに刺激し合って発展している。
	2	京都では、価値を高めるために工夫したものづくりが行われている。
	3	京都の特色を生かした産業活動が行われている。
	4	京都の商業は盛んで楽しく買い物ができ、元気な商業者が多い。
	5	働くことを希望するひとがいきいきと働ける場を得る機会がある。
	6	京都では、産業界・大学・行政などが連携して、企業の誘致や事業環境の整備を進めている。
	7	ソーシャルビジネス(社会的企業)が育ってきている。
	8	京都の卸売市場は、安全・安心な生鮮食品の提供に役立っている。
9 観光	1	じっくり滞在し、ほんものとおふれあい、歩いて楽しむ観光客が増えている。
	2	京都は、観光客にとって質の高い観光都市である。
	3	京都市民は、四季折々の京都観光を楽しんでいる。
	4	京都は、市民にとってくらしやすい観光都市である。
	5	京都市民は、観光客を温かく迎えるなど、京都観光の振興に協力的である。
	6	子ども連れの家族や若者、ビジネス客など、新たな京都ファンが増えている。
	7	京都は、国際会議などが盛んに開かれるMICE都市になってきている。
10 農林業	1	京都の農林業が魅力を増し、後継者や新たな担い手が育っている。
	2	京都の農林業は、環境に負荷をかけない栽培の取組や森林の整備を通して、地域社会に役立っている。
	3	市民農園や森林を守る運動、学校の体験学習などにより、京都の農林業が身近になってきている。
11 大学	1	京都は、「大学のまち」として学びの環境が充実し、多様な伝統文化芸術等に触れる機会に恵まれている。
	2	京都では、世界から留学生や研究者が集まり、国際社会で活躍する人材が育っている。
	3	京都の大学は、世界に貢献する高い研究成果を上げている。
	4	学生は、京都において社会で活躍する力を養い、そのパワーで京都のまちを活性化している。
	5	大学の人材や研究成果は、産業の活性化と雇用の創出に役立ち、地域の発展にもつながっている。
12 国際化	1	京都には、世界から観光、留学、ビジネス等を目的として訪れるひとびとを引き寄せる魅力と、受入環境がある。
	2	京都は、文化資産の継承、環境にやさしい取組などを通して、平和都市として国際社会に貢献している。
	3	国籍、民族、文化等が違っても互いに理解し合い、ともにいきいきとくらせるまちになっている。
	4	京都では、市民、民間レベルでのさまざまな国際交流が盛んである。
13 子育て支援	1	子どもの見守り活動など、身近な地域で子どもとの交流や子育て支援の取組が進んでいる。
	2	京都では、子どものいのちと人権が大切にされている。
	3	必要ときに健康相談を受けたり、病院に行けたり、安心して子どもを生み育てることができる。
	4	働き方の見直しや男性の育児参加など、仕事と子育ての両立に取り組むひとや企業が増えている。
	5	子どもたちが安心して過ごせる居場所や遊び場が身近にある。

分野	番号	設問文
14 障害者福祉	1	障害への理解が進み、障害のあるひととないひと、認め合い、支え合ってくださるまちになっている。
	2	障害のあるひとが、みずから必要な福祉サービスを選択し利用することで、住み慣れた地域でくらしやすくなっている。
	3	働く場で、障害のあるひとがいきいきと働く姿を多く見かけようになっている。
	4	バリアフリーなどの生活しやすい社会環境の整備が進み、くらしやすいまちになっている。
15 地域福祉	1	社会的に弱い立場にある高齢者や障害のあるひとが、地域ぐるみで見守られている。
	2	地域福祉活動などのボランティア活動に参加しやすい地域づくりが進んでいる。
	3	地域において福祉にかかわる民生委員などのボランティアのひとひとが活発に活動している。
	4	地域のつながりが、福祉活動や防犯・防災の取組に役立っている。
16 高齢者福祉	1	高齢者が敬われ、心身ともに健康で充実したくらしを送れている。
	2	高齢者の知恵や経験、技能が社会に生かされている。
	3	高齢者が地域で見守られ支えられて、安心してくださるまちになっている。
	4	介護サービスや住環境整備などが充実し、高齢者が住み慣れた地域でそのひとらしいくらしを送れている。
	5	高齢社会が進展するなか、介護職が重要な仕事となっている。
17 保健衛生・医療	1	正しい情報を基に、健康づくりに取り組むひとが増えている。
	2	利用しやすく頼れる医療や検診の機関がある。
	3	安心して食べられる食品が手に入るなど、衛生的な生活環境が整っている。
	4	公共の場では禁煙が進んでいる。
	5	感染症や食中毒等の健康危機に対し、安全と安心が確保されている。
18 学校教育	1	保護者や地域のひとひとが学校のさまざまな活動に参画するなど、地域ぐるみの教育が進んでいる。
	2	安全快適な学校施設や最新の設備など、充実した教育環境が整っている。
	3	学校の先生は、他校の先生、保護者や地域のひとひとと連携して、子どもの教育に取り組んでいる。
	4	子どもたちが参加できる、さまざまな学びやスポーツ、体験活動の機会がある。
	5	京都ならではの伝統文化や環境の教育が、社会を担える人材の育成に役立っている。
19 生涯学習	1	京都には、大学や博物館、神社仏閣、企業、NPOなどが提供する学習機会が豊富にある。
	2	生涯にわたって自ら学習したことが、仕事や社会活動に役立っている。
	3	地域での取組において、幅広い世代がともに学べる機会が充実している。
	4	子どもを社会の宝として社会全体で育む意識と行動が広がっている。
20 歩くまち	1	京都では、過度な自動車利用を控え、歩くことを中心としたライフスタイル(くらし方、生き方)が大切にされている。
	2	京都での移動には、公共交通が便利である。
	3	歩いてこそ魅力を満喫できるまちとなっている。
	4	まちなかや観光地において、自動車による渋滞が減っている。
	5	地下鉄、市バスは、市民生活に役立っている。
	6	駐輪場の整備や自転車の利用マナーの向上により、自転車と歩行者が共存できている。
21 土地利用と都市機能配置	1	買物などの日常生活には、徒歩や自転車、公共交通が便利である。
	2	田の字地域や京都駅の周辺は、にぎわいのある魅力的な地域である。
	3	京都のまちの南部地域が発展してきている。
	4	身近な地域が魅力的になっている。
	5	身近な地域で、自主的なまちづくり活動が進んでいる。
22 景観	1	京都の個性的な町並み景観が守られている。
	2	身近に誇りや愛着を持てる町並みや風景がある。
	3	京都のくらしや文化を伝えている京町家が継承されている。
	4	大通りや歴史的地区から電柱が取り除かれ、美しい公共空間が増えてきている。
	5	三山の山並みなどの自然風景は、美しく魅力がある。
23 建築物	1	建物を新築するときは、建築ルールが守られている。
	2	バリアフリー化された建物が増えている。
	3	地震や火災に強い建物が増えている。
	4	身近な地域にある細い道は、地震や火災などの災害時に被害が大きくなりくいよう改善されている。
24 住宅	1	長く大切に使える住宅が増えている。
	2	地域の行事や自治会活動に、以前から住んでいるひとと、新しく転入してきたひとと、分け隔てなく参加している。
	3	身近な地域で空き家が減っている。
	4	低所得者や高齢者などがくらしやすい市営住宅や民間賃貸住宅が十分に確保されている。
25 道と緑	1	災害時も安全に移動できる道路網ができている。
	2	京都は緑が豊かである。
	3	市内の道路や橋が、市民の財産として、よい状態で管理されている。
	4	道路や公園などがバランスよく整備され、魅力ある都市空間が増えている。
26 消防・防災	1	身近なところで防火意識が高まり、出火防止の取組が進んでいる。
	2	京都には文化財を守る意識が根付いており、文化財を火災などの災害から守る取組が進んでいる。
	3	消防署は、火災や事故などが発生した場合に適切に対応し、いざというときに頼りになる。
	4	応急手当の知識や技術を備えたひとが増えている。
	5	防災意識の向上とともに、地域ぐるみの災害対応力が高まっている。
27 くらしの水	1	京都の上下水道は、安全で安心していつでも利用できる。
	2	大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。
	3	京都の河川は水がきれいで、水辺に親しみやすい。
	4	水道水がおいしくなるなど、京都の上下水道サービスは向上している。
	5	京都の上下水道は、経営が安定しており、将来も安心して使い続けることができる。
	6	水や水辺環境が大切にされるなど、水と共に生きる意識が高まっている。

むすびに

4年間のデータを得て、今年度の分析においては、世代別・性別や政策分野ごとの特徴をより詳細に見ることができた。過去3年間の回答傾向から明らかに異なる回答を示したのは、台風により大きな洪水被害が出たことで「くらしの水」に関する生活実感の度合いがマイナスに作用したことである。ひとつの出来事で行政の取組が左右されることはないにしても日々の生活と安全に関わるものについては速やかな対応が必要と思われる。

自由記述の分析結果を見ると生活保護に関する意見が最も多く、年金生活に関するものが続いた。子供と教育・学校についても多くの意見があった。

生活実感と幸福実感の相関関係の分析結果で最も特徴的だったのは若年層男性であり、相関係数は他の世代別・性別よりも高かった。現時点では生活実感が高くないにしても、これから高めてもらうに連れて幸福実感も高まる可能性が感じられた。

「未来の京都創造研究事業」としてはこれまでに得ている分析結果を今後の調査・研究に活用し、短期的には事業の改善へ、長期的には未来の京都づくりに向けた政策の企画・立案に貢献したいと考えている。

最後に、繰り返しとなるが、さらに経年変化を見てより詳しく分析するため、またできるだけ多くの市民の生の声をお聞かせいただきたいと考えるため、「市民生活実感調査」の継続と、もっと多くの回答数が得られるような京都市の取組を強く期待する。

分析体制

平成26年度の分析は、公益財団法人 大学コンソーシアム京都の専門委員会である「都市政策研究推進委員会」の協力を得て、以下の体制で実施した。

○事務局：公益財団法人 大学コンソーシアム京都 調査・広報事業部

- ・プロジェクト・マネージャー 水田哲生，博士（政策科学）
- ・主幹 矢野裕史

○アドバイザー：

- ・京都大学 人間・環境学研究科 准教授 佐野 亘，博士（人間・環境学）
- ・京都文教大学 総合社会学部 准教授 山本真一，博士（経済学）

※両名とも「都市政策研究推進委員会」委員

○アドバイザー兼実務担当者：

- ・同志社大学 政策学部 嘱託講師 増田知也，博士（政策科学）

※「都市政策研究推進委員会」委員の推薦

（肩書は平成27年3月31日現在）

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 「未来の京都創造研究事業」

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下ル
キャンパスプラザ京都（京都市大学のまち交流センター）

TEL：075-708-5803

FAX：075-353-9101

大学コンソーシアム京都 未来の京都

検索

